

2021 年度事業報告  
(2022 年 5 月 26 日理事会資料)

社会福祉法人 宮城厚生福社会

はじめに

世界的な新型コロナウイルスの感染拡大が続き、法人内でも複数の保育園で新型コロナウイルス感染症による事業休止を経験しました。法人内では管理部間での情報共有を密にし、日々の感染対策と収束に向け対策を取ってきました。保育園が休園になることで保護者の皆さんにご迷惑をおかけしました。

福祉事業は生活の継続に必要な事業であるとして、感染対策の上継続が求められています。職員には引き続き自粛を要請しながらも、職務上での感染事例もあります。このような状況で働く職員のメンタルヘルスと体調管理を重視し、コロナ禍でも出来る豊かな福祉の活動も進めることができました。2021年度の介護報酬改定の中では感染発生時のBCPの作成が求められています。初期対応と言う点では一定の対応基準の確立が出来ましたが、まだ全体の事業継続計画は検討の端に付いたところです。新型コロナ対応を持続させ、福祉事業を継続させるためには、現行制度の問題点も改めて浮き彫りになっています。保育事業が休業となっても公定価格が保障される一方、介護・障害事業では稼働率による収益となり、感染発生時には減収となります。全国で見られるように感染発生事業所では経営難—職員への賃金が払えないという事態に陥っていることから、社会的に必要な事業として安定した経営が出来る施策を今後も求めていきます。憲法が保障する「健康で文化的な最低限度の生活」に基づき、一人ひとりの生活を守る政策を願います。

介護・保育・障がい・児童と私たちが実施する事業は、近年処遇改善の施策が進められていますが、いまだに給与水準は低い他、新たな制度への対応が次々と求められ厳しい経営環境となっています。昨年度も様々な団体の皆さんと共同で運動を進めてきました。保育署名・介護署名の他、介護フォーラム、福祉ウェブの運動を進めてきました。

今年度は当初予算では法人全体で▲15百万円の予算でしたが、各部門で経営改善・稼働改善を進め、年度末決算では+72百万円としました。介護事業では人員採用を進め、特養での体制が改善され稼働の改善も進みました。2019年度再開したデイサービスセンター木の実、デイサービスセンターくりこまの里の認知症対応型は、デイサービスの経営対策会議を進めてきましたが、十分な安定稼働にすることが出来ませんでした。

保育事業では年度当初は予定児童の受け入れが出来ませんでした。年度途中で受け入れることが出来ました。待機児童は減少傾向にあり、定員割れとなっている地域も増加しています。このような中で選ばれる保育所となる取り組みが必要です。保護者に分かりやすく魅力を発信することや、サービスの充実について議論を開始しています。

障がい事業では、今年度当初予算では初めての黒字予算としましたが、大きな赤字となっています。この間の経営対策会議を行ってきました。事業所職員の奮闘により就労支援事業では一定の成果が見えています。児童部門での課題が大きく、担当常務を配置により理念に基づく実践と職員集団作りへの援助を開始しています。

引き続き職場職員の力を結集し、安定した経営が出来る枠組みづくりを進めます。

2021年度寄せられた苦情は24件と前年度19件に続き、新型コロナの中で大きく減っている状況が続きます。申し出頂いた苦情は全て今後活かすために法人全体で共有化し、今後の丁寧な援助に当たっていくための教訓とします。

#### 2021年度の重点課題

1. **管理者が中心となり、理念に基づく実践を追求した事業運営を進めます。管理部・職責者を中心とした職場作りと職員育成を重視します。理事会・人事部は必要な政策立案を行い、取組みの具体化の提起を行い実践します。**

2019年度からは人事部長の下に職員確保の担当職員を配置し、県内外の学校訪問等の取り組みを強化したほか、今期は現場との連携が強化され円滑な採用が進みました。介護職員の採用は2021年度19名、2022年度は新卒3名と、大きな成果が出ています。

2. **法人全体、各部門、事業別に借入金償還や設備投資が出来る資金の確保を行える経営を追求します。法人の必要利益2千万円に対し、今期の当初予算は赤字としない経営（介護▲3千万円、保育+3千万円、障害±0円）を目指します。今期の目標稼働を事業ごとに設定し、到達に向けた対策を進めます。**

当初予算では法人全体で▲15百万円の予算でしたが、各部門で経営改善・稼働改善を進め、年度末決算では+〇百万円としました。人員体制の確保による派遣からの転換や稼働改善、経費の見直しなどを進めました。一方で事業所毎に見れば課題を残しており、運営状況の改善を進めています。

3. **部門ごとの目標利益確保が出来る経営を、2023年の期間目標を持ち取り組みます。事業再開など必要な経営的対策を進めます。設備投資が必要な事業所が複数あり、中期経営計画の策定と具体化と、資金繰り計画を策定します。**

法人で2023年から2028年間の中長期計画を定め、以降10年間の設備投資資金を見通した必要利益の積算を進めました。経営計画に基づく資金繰り計画を実効性あるものとするため、各拠点での経営改善を進めます。

4. **私たち社会福祉の働く土台である憲法25条を守ります。社会保障運動を重視し、平和で人々が幸せに暮らせる社会の実現に向けて、広範な団体・個人と共同の運動を進めます。**

私たちの仕事やそれぞれの暮らしと深く結びついていることを学ぶことを重視し、

保育署名・介護署名の他、介護フォーラム、福祉ウェブの運動を進めてきました。広範な団体との共同も今後も進めていきます。

5. **常務会、執行管理者会議、各部・委員会を本部機能として位置づけ、さらに強化します。**

教育研修委員会では法人理念を学ぶ場として制度教育の運営を1～4年目で実施しました。社会保障委員会では、平和・社会保障運動を学んで広げる役割をはたしています。

6. **採用活動を引き続き強化し、採用目標では介護職15名、保育士6名。法人の理念と歴史を振り返り、世代継承を図ります。職員教育活動を重視して取り組み、理念継承に向け取り組みます。**

介護・保育事業ともに採用目標を達成し、現場の体制を改善しました。世代継承の課題は法人学術運動交流集会で民医連や法人内での理念・実践を学ぶ機会を作る他、管理者研修・中間管理者研修を再開させています。また、法人として初めて初任管理者研修を行いました。階層別研修も重視していく必要があります。保育ではキャリアパスに基づく制度研修も進められています。介護職員のキャリアパス制度については進めることが出来ませんでした。

## 高齢者福祉施設 「宮城野の里」

2021 年度も引き続き新型コロナウイルス感染症への対応に追われる 1 年でした。職員や家族の感染はありましたが、利用者、家族等の協力と職員の努力で感染拡大を防ぐことができました。施設長の交代もあり、落ち着かない 1 年となりました。

経営は、デイサービスセンター I とショートステイで当初予算から下方修正となりました。地域包括支援センターでは職員の補充ができず減算となってしまいました。その中でも各事業所の奮闘により予算を大幅に超過することができました。施設の大規模修繕に備え、予算達成を目標に取り組んでいきます。

住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域のニーズに応えられるようサービスの質を高め、地域に貢献できる施設運営と、職員が安心して働ける環境づくりを目指し取り組みます。

### 【福田町デイサービスセンター I】

#### 1. 利用者動向

コロナ禍の中丸 2 年を迎え、日頃より感染症対策に取り組みながら、日々緊張感を持ってご利用者やご家族、他関係者と関わりを持った 1 年でした。年度初めから、ご利用者の入院、施設入所によるキャンセル、コロナワクチン予防接種（3 回分）の副反応による利用キャンセルは例年にはない要因でした。また、要支援から要介護への変更も多い中、かわることなく利用継続となっています。振替利用や短時間利用者の受入も柔軟に対応してきました。上半期から実人数 70 名以下という状況を打破する為に、「受入れは断らない」事を念頭に置き、常に稼働の進捗状況と共に運営してきましたが、目標稼働を達成することができませんでした。

#### 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	24	27	310
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360
実人数 (支援)	18	18	15	15	17	16	17	17	20	18	17	17	205
実人数 (介護)	51	47	48	50	53	61	55	58	53	52	52	49	629

延人数 予防	1	17	21	21	20	23	24	23	20	34	27	23	31	284
	2	98	98	88	88	91	87	94	87	99	80	80	91	1081
延人数 (介護)		512	499	513	545	554	613	547	566	563	502	484	500	6418
稼働率		80.3	79.3	79.6	80.6	85.6	92.6	87.6	86.3	89.3	84.6	81.6	76.6	83.6 (平均)
平均介護度 (予防)		1.8	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7 (平均)
平均介護度 (介護)		2.0	2.0	2.1	2.0	20.0	1.9	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.7	1.9 (平均)
キャンセル		75	57	71	47	55	62	48	56	50	51	53	66	691

## 2) 入退所者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2020	2021
開始者数	3	2	2	3	6	6	3	5	4	2	1	2	21	39
終了者数	3	6	4	1	1	6	2	3	6	2	4	6	37	44

## 3) 利用開始理由

開始理由	開始合計	機能低下予防	家族の介護負担軽減	見学体験で気に入った	入浴目的	支援→介護へ移行	再開利用	知人が利用している	その他
人数	39	1	4	16	5	8	1	3	1

## 4) 利用終了理由

終了理由	終了合計	死去	入所	デイⅡへ移行	本人が希望しない	介護⇒支援へ移行	支援⇒介護へ移行	入院	他デイへ	その他
人数	44	5	8	2	5	1	8	8	2	5

## 2. 具体的な取り組みについて

### 目標

①コロナ禍の中、感染症対策に取り組みながら、利用者様お一人おひとりが「ここに来て良かった」と安心して利用でき、QOLが維持・向上できるデイサービスを目指します。

・マスク着用、手指消毒、テーブル間のパネル設置、定期的な換気等の声掛けや対応により、十分な感染症対策に取り組むことができましたし、感染者を発生する事ありませんでした。

・デイサービスでの「ここに来て良かった」と思える、日替わりの活動や個々で選択できる活動内容を充実させ、利用者様が自主的に取り組める活動を提供できました。(温泉の日、フラワーアレンジメント教室、クラブ活動等)

・機能訓練については、生活に即したプログラムとすることで、歩く事に自信が持てたり、買い物に行けるようになった、習慣としていた散歩を再開できた等、個々の目標達成に具体化した内容を提供することができました。

②チームで情報共有するための仕組みとして、ヒヤリハットに気付く視点を持ち、検討し利用者様への統一したケアを目指します。

・ヒヤリハット件数はなかなか増えず、気付きの視点を持つ事に対する意識も、業務の慌ただしさの中で、事故が発生してから気づくことが多かったです。今後は、事故の発生を振り返り、原因を知り、未然に防ぐ為の気づきについて考えていければと思います。

③目標稼働率 90% ・年間平均稼働率 83.6% (-6.4%) でした。

・稼働については、毎月の相談員会議で、現状把握と今後の取り組みを明確に示し、目標達成に向けて、取り組んできましたが、達成した月は9月のみでした。要支援から要介護へ移行される方が多かった分、要支援の利用者は激減しました。要支援の受入に対してのサービス内容の充実に課題が残ります。「利用者様へ選ばれる為のデイサービス」をどのようにしていくべきか今後の課題です。利用者様も70代から90代と年齢層の幅もあり、それに対応する新たな運営方法についても考慮していきたいと思えます。

## 【福田町デイサービスセンターⅡ】

### 1. 利用者動向

コロナ禍3年目になりますが、感染症対策に努めながらの事業運営には、緊張感を持って利用者様やご家族と関わった1年になりました。施設入居や死亡などの利用終了が相次ぎ、稼働率が低迷した時期もありましたが、デイサービスⅠからの移行、ご家族の事情による追加利用、振替利用を受け入れる柔軟な対応、営業活動を積極的に進め新規利用者の獲得にも繋げ、稼働率を維持することが出来ました。

#### 1) 利用者実績

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
営業 日数	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	24	27	310
定員	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
利用 実人数	22	22	22	23	23	22	20	20	21	21	21	21	21.5 平均
利用 延人数	251	256	250	261	253	236	230	219	229	222	228	254	2889

稼働率	80.8	81.6	80.0	80.8	80.8	75.8	73.3	70.0	73.3	77.5	79.1	78.3	77.5 平均
平均 介護度	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.3	3.2	3.2	3.5 平均

## 2) 入退所者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2020	2021
開始者数	0	0	1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	9	8
終了者数	0	0	0	0	2	2	1	1	1	1	1	1	9	10

## 3) 利用開始理由

開始理由	利用開始 合計	交流目的	ロコミ	家族の介護 負担軽減	見学・体験 気に入った	入浴 目的	認知症進 行予防	デイIより 移行
人数	8	0	2	1	1	2	0	2

## 4) 利用終了理由

終了 理由	利用終 了合計	入院	死去	入所	本人が希望 しない	家族が希望 しない	ターミ ナル	転居	その他
人数	10	1	5	3	0	0	0	0	1

## 2. 具体的な取り組みについて

### 目標

①コロナ禍の中、感染症対策に取り組みながら「自分らしく 安心して 暮らし続けられる居場所」となるように、居心地の良い雰囲気づくり、利用者様個々に応じた対応を行ないます。

- ・マスク着用、消毒、手洗いなどの、こまめな声掛けや支援、介助で、十分な感染症対策に取り組むことが出来ました。

- ・利用者様おひとりおひとりのニーズに合わせた対応を検討し実践しました。安心して過ごせた、笑顔が増えた、ご自分の役割や居場所が見つかったという利用者様が増えることが、職員のモチベーションとなり、更に良い雰囲気づくりに繋がったと感じました。同時に、利用者様の心の安定が、ご家族の支援にも繋がっていると強く感じました。今後もこの理念を大切に掲げ、認知症ケアに努めていきます。

②専門性のある認知症ケアを実践して、利用者様の認知症進行の予防や緩和に努めます。

- ・毎月、継続して学習会を行なう事で、認知症ケアの理解を深めることが出来ました。

- ・学習会の内容については、現在のチームに何が足りないかを見極めて、その時々に必要な学習会を行なうことが出来ました。

- ・利用者様がデイサービスから帰ってからどう過ごしているのか等、利用者様のデイサー



ビス以外での生活を想像する力が不十分だと感じました。次年度の課題と捉え、ご自宅で、他サービス事業所で、様々な場면을想像しながらのケアを実践していきます。

③ご家族、介護支援専門員、地域包括と協力し、地域の各事業者所との連携を図り、地域資源とのつながりを保ちながら、信頼され評判の高いデイサービスを目指します。

- ・ご家族にお渡しする連絡帳には、毎日の様子を詳しく記載しました様子や状態に変化があった際は、電話で連絡し情報を共有して、よりよいサービス提供に繋がりました。

- ・ご家族、介護支援専門員、他サービス事業所と、多職種連携を図り、ニーズに合わせ柔軟な対応が出来ました。

- ・ご家族、介護支援専門員へ、毎月、写真付きの広報誌を配布しました。「うちでは、あんな良い表情見られないので嬉しい。」等のお言葉をいただき好評です。

- ・コロナ禍という事で、家族懇談会や運営推進会議の開催が出来ませんでした。次年度は、コロナ禍での開催方法を検討し、開催の実現に努めます。

④目標稼働率 70%

- ・年間平均稼働率 77.5% +7.5 目標稼働達成

- ・利用終了が相次ぎ、稼働が低迷した時期もありましたが、デイ I 利用者の認知症進行によるデイ II への移行がスムーズに行えたことや、営業活動を積極的に進め、新規利用者の獲得に繋がったことで、目標稼働率を毎月達成することができました。

## 【短期入所生活介護施設福田町】

### 1. 利用者動向

昨年度に引き続きコロナ禍の中、職員は感染には十分気を付けているつもりでも感染し、うつしてしまうのではないかとこの恐怖にも似たような精神状態が続きました。ショートステイは在宅サービスであるため、ご家族や他のサービス利用時において陽性者が出た場合も感染し、ショートステイ利用中に発症するという可能性もあるため、感染のリスクが高いサービスであることを実感すると共に、引き続き感染対策の継続はもちろんですが、濃厚接触者や感染疑いの方が出た時の広げないための初動が非常に重要であることを実感した 1 年でした。

平均介護度に大きな変化はありませんが、施設入居を考えている要介護 3 の方の長期利用が多い状況となっており、今後もこの状況が続くと考えています。

毎月新規のご利用者はいらっしゃいましたが、定期利用となる利用者様の獲得に繋がっていないことが稼働率の伸び悩みの理由の一因であると思います。緊急の受け入れや新規でご利用していただいたことだけに満足せず、定期的なご利用に繋がっていきけるよう、ご自宅での生活の継続を踏まえたケアの実践と、潜在的になっているご不満や改善点はないかを追求しながら、よりよい支援をしていきたいと思っております。

1) 利用者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	昨年度比
稼働率 【予約受付時稼働率】(%)	100.3 【93.5】	99 【89.2】	104.7 【88.3】	98.2 【91.1】	92.1 【90.1】	93.7 【86.8】	95.8 【86.4】	102 【81.7】	101.9 【86.5】	96.1 【91.4】	97.1 【86.4】	94.4 【78.5】	97.9 【87.4】	-4.4 【-12.9】
実人数 (人)	57	58	62	57	58	56	55	54	60	54	53	56	56.5	-2.6
延べ 人数(人)	602	614	628	609	571	562	594	612	632	597	545	585	595.9	-26.9
介護度	3	3	3	2.9	2.7	2.8	2.8	2.7	2.6	2.8	2.8	2.9	2.8	-0.1
新規 (人) 【うち定期利用】	3 【3】	2 【0】	3 【2】	2 【0】	5 【1】	5 【4】	5 【2】	5 【1】	6 【1】	6 【1】	6 【4】	3 【3】	4.2 【1.8】	+0.6 【+0.1】

2. 具体的な取り組みについて

① 気持ちよく過ごしていただけるよう取り組みます

(1) 利用者様の身体・精神状態に合わせた声掛け・対応をしていきます

声掛けや認知症の学習を通して、利用者様の混乱や不安な時等に寄り添い、実際の対応に活かされた場面も出てきましたが、忙しかったから・時間がなかったからできなかったとってしまう気持ちや利用者様の混乱した状態の理解や寄り添うことよりも落ち着かせる声掛けを優先してしまうこともありました。実践してみたがうまくいかなかった・実践しようと思ったができなかった等振り返りの機会をつくっていきたいと思います。

利用者様の気持ちの理解を深めるため、センター方式の『私の姿と気持ちシート』を元にしたシートを作成し、毎月各ユニット1人ずつの利用者様に焦点を当てて気持ちの理解を深めています。会議ではADLの変化や介助方法の変更についての討議が多くなってしまったため、今後も継続して取り組んでいきたいと思います。

(2) 楽しいと感じていただける時間を増やしていきます

私の姿と気持ちシートを通して、その方の楽しみを知ることできるようになってきたと感じています。パズルや玩具も準備し、塗り絵や学習プリント類と併せて提供しました。隣席の方と一緒に、又はお一人で集中して取り組まれていらっしゃいましたが。職員側からの働きかけで提供している状況のため、置き場所の検討や利用者様の興味のあることを伺っていきたいと思います。

② 必要な情報が正確に伝わる申し送りの仕組みを整えます

情報の取捨選択が難しく、どの情報が重要なかわかりにくくなってしまうことや口頭での申し送りの量が増えていってしまいました。ノートの活用や口頭での申し送り内容を精査していくと共に実際の事例を挙げて申し送りの練習をしていきたいと思います。

③ お荷物の数え間違いや忘れ物、返し間違いを減らします

退所直前まで使用している物や薬等を荷物のチェック表とは別に伝票にし、連絡帳を入れる際に返却したか確認できるようにしたことで、退所チェック自体は円滑にできるようになりましたが、入所時の数え間違いや数え忘れの数に大きな変化はありませんでした。原因を挙げて引き続き対策をしていきます。

④ 目標稼働率 98.5%

平均稼働率 97.9%と目標の達成には至りませんでした。実人数が少ないため、キャンセルとなってしまうと、その日数を埋めることが厳しい状況になってしまいました。ある程度長い日数を利用していただけの利用者様を確保していくのと同時に新規の利用者様に継続して利用していただけるようにケアマネジャーやご家族様にも利用の状況や、ご自宅に戻られた後のことも考えたケアをしていることをお伝えし、選んでいただけるショートステイを目指していきたいと思います。

## 【ケアハウス宮城野の里】

### 1. 入居者動向

#### 1) 入居年数 (2022. 3. 31)

	0～5年	6～10年	11～15年	16年以上	計
男性	3	3	0	0	6
女性	12	9	1	2	24
計	15	12	1	2	30

#### 2) 年齢状況

年齢	61～65	66～70	71～75	76～80	81～85	86～90	91～	合計	平均年齢
男性	0	1	1	0	0	2	2	6	84.16
女性	0	0	6	3	4	6	5	24	83.58
合計	0	1	7	3	4	8	7	30	83.7

3) 退所者数・理由内訳

退所後	特養	死亡	他施設	自宅	合計
人数	0	0	0	0	0

4) 要介護認定者・内訳

区分	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	事業 対象者	合計
	1	2	1	2	3	4	5		
人数	8	9	5	2	1	0	0	3	28

5) 介護保険・医療保険サービス利用者数・内訳

サービス 種別	訪問介護		通所 介護	通所 リハ	福祉用具 レンタル	訪問 看護	居宅療養 管理指導	訪問 リハ	ショート ステイ	往診
	生活 援助	身体 介護								
人数	16	6	18	3	18	5	2	3	5	3

6) 入院者：6名（内訳：貧血1、抗がん剤治療1、胆管炎1、蜂窩織炎1、下血1、狭窄症1）

7) 車椅子利用者：2名、歩行器利用者：17名

8) 入居待機者数：56名（2022.3.31現在）

2. 具体的な取り組みについて

- ・お一人おひとりへの目配り気配りを十分に行い、対話の機会を確保する。対話により変化や悩みを把握し早期に対応する。  
⇒日常生活に対しての不満や疑問について「わたしのひとこと」として沢山の方からご意見をいただきました。一人の意見にとらえず、入居者全員へお知らせし施設としての考えを伝えることができました。毎日の訪問で状態の変化や入居者間のトラブルで悩まれている方には時間をとり対応しました。
- ・朝の健康観察を継続しお一人おひとりの心身の状況を把握することで体調の変化に早期に気づき対応する。  
⇒朝の訪問を継続し、発熱者や風邪症状の方を早期に把握することができ蔓延防止することができました。また服薬の確認、声かけを行っていることで病状の安定がはかれたと思います。
- ・自主性とプライバシーを尊重し安心して健康で生活が送れるよう支援する。  
⇒コロナ禍ではありましたが、入居者がやりたい趣味活動（コーラス、カラオケ、テーブルゲーム、園芸など）は続けることができました。活動中に入居者同士の意見の食い違いから強い口調になることも見られましたが、その都度職員が入り1年間継続して活動できました。
- ・季節ごとに楽しみを持てるような行事を企画し、閉じこもり防止する。  
⇒外出自粛している為、室内で季節を感じられるモノづくりを企画し多くの人に参加し

楽しんで頂け、次回作についても入居者の方と相談することができました。筋力低下予防の為、定期的に職員による運動教室を開催し閉じこもりを防止できました。

- ・他事業所と報連相をしっかりと行い、介護予防や安全に過ごせるお部屋作りを行う。  
⇒ケアマネジャーをはじめ他事業所と入居者の状態変化について情報共有を行いサービスの変更について迅速に対応できました。住宅改修についても提案でき安全なお部屋作りができました。
- ・介護保険で対応が難しい支援について、ケアハウス独自のサービスを明確化する。
- ・契約書の見直しやケアハウス独自の有料サービスについて検討する。  
⇒独自の有料サービスについて検討してきましたが、入居者、ご家族へ提案できるまでには至りませんでした。現時点で想定している独自の有料サービスについて、必要とする方は多くありませんが、ケアハウスでの生活を継続できるように次年度も検討していきます。

## 【居宅介護支援 宮城野の里】

### 1. 利用者動向

目標件数・予算については、全員が常にそれを意識・連携する事で、超過で達成する事ができましたが、キャパシティの問題で10件の受入依頼を断る結果となりました。次年度は、タブレット導入等ICT化を進め、キャパシティの拡大を図っていきます。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
介護提供数	164	161	169	169	172	174	169	173	174	164	164	160	2013
予防提供数	21	22	24	25	24	24	25	24	25	22	21	23	280
合計	185	183	193	194	196	198	194	197	199	186	185	183	2293
介護請求額	2832354	2632494	2910327	2801357	2940503	2912828	2834907	2911838	2891415	2757028	2719130	2729541	33,873,722
予防請求額	87400	82800	104100	91100	91100	92100	94600	87600	87600	80600	80200	93600	1,072,800
合計	2919754	2715294	3014427	2892457	3031063	3004928	2929507	2999438	2979015	2837628	2799330	2823141	34,945,982
再請求額	-15181	-18818	-23163	0	0	0	-15181	0	0	-18808	0	0	-91,151
予算	-2904000	-2706000	-2943000	-2798000	-2798000	-2798000	-2815500	-2815500	-2815500	-2815500	-2815500	-2815500	-33,840,000
予算差額	573	-9524	48264	94457	233063	206928	98826	183938	163515	3320	-16170	7641	1,014,831
新規契約	5	7	9	5	6	4	3	2	5	2	5	5	58
契約終了	7	2	7	4	3	6	1	4	11	7	4	4	60
受入拒否	0	0	0	1	2	0	0	2	2	2	1	0	10
新規紹介元	本人家族	病院	福包	利北包	利中包	高包	多西包	七ヶ浜包	岩切包	蛇田包	他居宅	サービス	新規合計
	18	7	20	2	3	3	1		1		2	1	58
終了理由	死亡	特養	老健	療養型	グルホ	小多機	有料特定	有料特定以外	長期入院	要介護認定等で退席へ	利用無	その他	終了合計
	20	10	7	3	1	3	1	2	3	2	3	5	60

### 2. 具体的な取り組みについて

#### ① 地域に開かれ、選ばれる介護の相談窓口・事業所を目指します。

##### ・丁寧親切な対応と説明の解り易さの向上について

高圧的な印象や話が通じない、解り辛い等の理由で3件の苦情を頂き、担当変更等の対応をしました。ご利用者様にはご迷惑をおかけしましたが、担当変更可能である事が周知され、忌憚の無いご意見も頂けて、全体で共有し改善に取り組む事ができたことには大変価値があり、事業所としての成長も感じる事ができました。

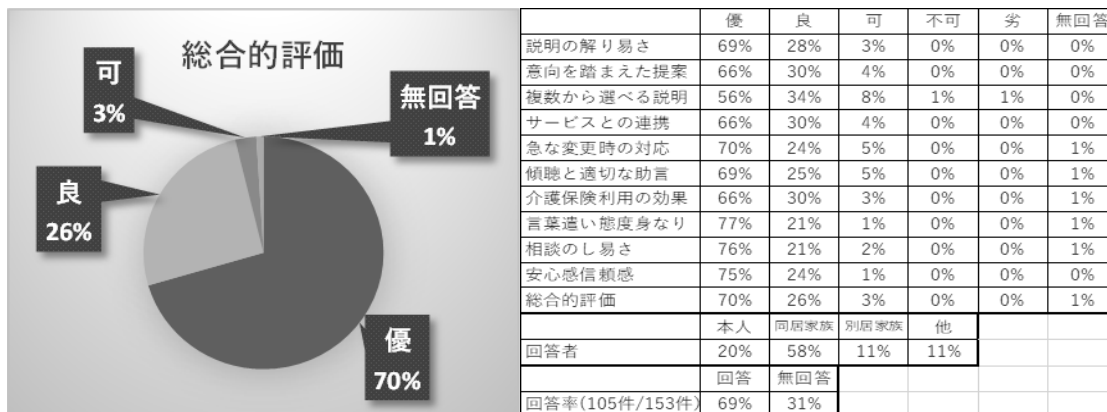
- ・ 公正・中立なケアマネジメントの確保について  
サービス利用割合を公表し、選定時には、意向確認の上で選択肢を提案、選定理由の明確化を行う様努めました。満足度調査の結果から、まだ対応が不十分であることが判りました。(詳細については、以下の満足度調査結果を参照して下さい。)
  - ・ 関係機関との顔の見える関係づくりについて  
コロナ禍により、積極的な訪問はできませんでしたが、先方主催の研修や調査への協力、ご利用者様の支援で連携を図る中で関係構築に努めました。
  - ・ リスクマネジメントについて  
給付管理や運転も含めた全てのミスにおいて予防の取り組みを実施しました。また新たに、虐待(不適切ケア)早期発見ツールも作成、予防の取り組みを開始しました。
- ② 特定事業所として、事業所並びに個々のケアマネジメントスキルの向上を図ります。
- ・ 定例会議の効果的運営について  
困難事例や利用者情報の共有、制度、社会資源、業務・経営改善を議題にして毎週開催、互いの配慮と工夫で経験年数に関わらず発言し易い環境作りに取り組みました。
  - ・ 担当不在時の相談援助や連絡調整における適切な対応について  
ご利用者様は約 200 名で、担当以外は殆ど面識が無く、情報把握は難しいのですが、状態不安定な方や対応に注意が必要な方、困難ケースについては、日々の申し送りや毎週の会議で共有され、概ね問題なく担当不在時の対応を行うことができました。
  - ・ 他事業所や他職種、医療との連携の強化について  
先方の事情に配慮して、電話や文書、面接による情報交換や相談を行い、連携強化に努めました。病院から連携方法への苦情を 1 件頂き、全体で防止策を検討しました。
  - ・ 業務の効率化、ICT 化の推進について  
作業速度向上の為、県版アセスメントの Excel シートを改良しました。今後も、記録・管理する書類の多さへの対応と内容充実の為、業務改善を進めていきます。
  - ・ スキルに応じた個人別研修及び必須法定研修の効果的・計画的に実施について  
必須法定研修は 4 月に実施、個人別研修もプラン点検等概ね計画通り実施しました。
- ③ 特定事業所として、地域のケアマネジメント機能向上の取り組みを行います。
- ・ 支援困難ケースを常時受け入れられる体制の確保について  
全員が目標件数以上の担当を持った為、体制に余裕の無い時期が多くありましたが、困難ケースについては、職員間の連携により、全て受け入れることができました。
  - ・ 他法人の居宅介護支援事業所と共同で行う事例検討会について  
当初は近隣事業所をお誘いして ZOOM 形式で行う計画でしたが、厚生協会からのお誘いを受けて変更し、11 月下旬に県連加盟の事業所と合同で実施しました。

### 3. 満足度調査の結果

ケアマネジメントの質の改善・向上の為、毎年恒例の「満足度調査」を実施しまし

た。方法は、昨年同様に無記名、質問 11 項目への 5 段階評価（優、良、可、不可、劣）、コメント自由記載、郵送返信という形で行いました。集計結果は以下です。

（ここでは、重複する内容は一つにまとめ、お褒めの言葉は割愛させていただきます。）



① 要望 1：コロナ禍で、入居中の施設に入館制限がある為、ケアマネとじっくり話や相談することができない。

→ 反省・改善策：施設へ入居されている場合には、施設のルールに従う他ありませんが、必要に応じてケアマネジャーから施設相談員へ相談、例外を認めて頂ける場合もある為、調査報告書の配布を機に、施設入居者全員に対し、これを説明する事としました。

② 要望 2：柔軟剤などの香りを控えてほしい。私（家族）が化学物質過敏症です。

→ 反省・改善策：ケアマネジャーとして「香害」「化学物質過敏症の方」への理解と配慮が不十分でした。香害とは、合成洗剤や柔軟剤、化粧品類などに含まれる合成香料（化学物質）によってさまざまな健康被害を生じることであり、化学物質過敏症は、ごく少量の物質に対して過敏に反応し、頭痛、感覚異常、呼吸困難、倦怠感、疲労感等の多彩な症状を呈する疾患です。近年では、この香害が原因となって、化学物質過敏症を発症する人が増えており、社会的な問題となっているのにも関わらず、私たちは、香料や消臭剤（特にファブリーズ）を気にせず使用していました。過敏症の方々には、長い間、苦痛を与えてしまっていたと思います。また、他にも同様の方がいらっしゃるかもしれません。今後は、化学物質過敏症について理解を深めるとともに、調査報告書の配布を機に改めて皆様にお聞きして、初回アセスメント時の質問にも加え、再発を防ぎます。

③ 要望 3：複数からサービスを選べる事の説明が不十分。（「リハビリ重視ならデイ A」「イベントならデイ B」など各一か所の情報提供ではなく、「リハビリなら A①、A②、A③…」「イベントなら B①、B②…」と、複数カ所情報提供してほしい。また、利用者側から質問するまで答えないのではなく、自ら情報提供してほしい。）

→ 反省・改善策：今年度一年間で当事業所が紹介した法人・事業所の数は、デイサービスが 39 法人・46 事業所、ヘルパーステーションが 20 法人・24 事業所、福祉用具が 17 法人・17 事業所ありました。ヘルパーは何処も空きが少ない為、空きのある所を探す他無いのですが、デイや福祉用具には多くの選択肢あります。例えばデイには、設備

や提供時間、専門職の配置、入浴、リハビリ、マッサージ、理美容、昼食代等に違いがあり、福祉用具には、価格や定期点検の頻度、保険外サービス等に違いがあります。また、アセスメントの結果次第では、同種の併用も可能です。毎年、同様のご意見を頂きながら、なかなか改善に至らないのは、知識と対応のスキル（説明力、意向の把握、傾聴、助言、提案、関係性の構築等）課題が重複している事が原因だと考えます。

ケアマネジャーは公正・中立な立場であり、特定の種類又は特定の法人（事業所）に不当に偏ることのない様、公正かつ誠実にケアプランを作成しなければなりません。ご利用者様に対し「複数の紹介を求めることができる事」「選定理由の説明を求めることができる事」を説明する責任もあります。今後は、知識と対応のスキルの改善・向上を図るとともに、各事業所の特徴がわかる一覧表の配布等を行い、ご自身での選択がし易くなる工夫を行っていきます。また、相談のし辛さ等、少しでも不満を感じておられる方が、我慢せずに申し出る事ができる様な環境・事業所作りをしていきたいと思えます。

## 【福田町地域包括支援センター】

### 1. 担当圏域の状況と課題

担当圏域の高齢化率は 22.27%（田子地区 20.87%、高砂地区 20.40%、鶴巻地区 23.92%、岡田地区 30.17%）特に岡田地区で高齢化が進んでいます。

昨年はコロナ感染症の流行により地域活動はほぼ停止の状況でしたが、今年に入り再開する地域と再開しない地域に分かれ、地域によって活動の差がでた年でした。

コロナ禍で自粛生活になり、外出の機会が減少し、その結果体力や筋力、認知機能の低下につながっての相談も増えました。また、地域の方同士での顔を合わせる機会がないため、独居や高齢者世帯の状況が見えない方もいるという弊害がありました。このような中で、包括への相談件数は昨年より増えていて、特に精神障害の疾患を持つ高齢者の相談が目立ちました。そのような方は受診に繋げない方が多く、内服薬を含めた治療が出来ずに悪化する傾向が見られています。

現在もコロナ禍は続いており、地域で暮らす高齢者が心配な状況です。包括としては今後どのように相談先を知ってもらえるか、また、「見守り」を広げていくために今以上に地域の事業所や関係機関などと繋がっていくことが大切になると考えます。

### 2. 2021 年度の総括

#### ① 予防プラン件数（件）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
215	214	223	207	210	209	211	207	205	203	201	223

#### ② 相談件数(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
107	111	90	170	112	135	107	101	117	119	105	124



※相談内容としては、介護保険の相談が最も多く、認知症や虐待や経済的困難、消費者被害などプラン以外の相談も多かったです。

③早期の相談に結びつけるための取り組み

- ・第一・三民児協の会議には参加し顔の見える関係づくりや包括のPRを行いました。
- ・地区社協の総会や地域のサロン等は中止であったため、包括の広報誌を年6回作成と増やしPRに努めました。その中で、消費者被害や、コロナ禍での健康や運動について広報しました。

地域の商店や病院にも貼ってもらうなど地域との連携も図りました。

④認知症の普及啓発と早期相談・本人や家族の支援のための取り組み

- ・認知症サポーター養成講座を1回行い、9名の参加でした。
- ・認知症（ひまわり）カフェを地域密着型デイサービスの場所を借りて3月から再開しました。

ボランティアの方や参加者に再開を喜ぶ声が聞かれ、定期開催することになりました。

- ・「認知症の人と地域を支える会」を、Zoomで3回行い、地域密着型事業所と情報共有を行いました。

⑤地域の実情把握と地域における支え合いの体制づくりの取り組み

- ・包括圏域会議は、年2回、各中学校区に分かれて行い、宮城野区健康増進係の佐々木保健師に「正しく感染予防をしながらこれからの地域活動を考えよう」をテーマに講話をお願いしました。
- ・今年度は、地域活動の休止により、地域の方と顔を合わせる機会が減少しましたが、南蒲生と新原田、堀切茶話会の被災地区の活動支援は休止せずに行いました。

⑥ケアマネ支援の取り組み

- ・虐待や経済的困難などの困難事例のケースの介護支援専門員からの相談で、同行訪問や支援者会議などの支援を行いました。
- ・介護支援専門員の資質向上研修に関しては、今年度は書面研修として行いました。
- ・委託先の居宅の介護支援専門員にアンケートを行い、介護支援専門員の人数や基礎資格などの把握を行いました。

⑦権利擁護の普及啓発の取り組み

- ・消費者被害の啓発で、啓発用ティッシュを関係機関と連携して配布しました。また、特殊詐欺注意報をメールで事業所に配信するなどの取り組みも行いました。
- ・権利擁護の学習会を「精神疾患の方への対応」をテーマに事業所職員向けにZoomで1回行いました。

⑧介護予防の取り組み

- ・介護予防教室は、6月から地域の実情に合わせて開始し、年18回行いました。感染拡大の影響で1月2月の開催は見送りました。
- ・南蒲生・新原田・田子西こだま・堀切等の健康教室や茶話会を、地域や事業所、区と連

携しながら年途中から再開することができました。

#### ⑨職員の質の向上のために

- ・月 2～3 回ケース会議を開催し、関わりや支援の情報共有や意見交換の場としました。
- ・今年度は研修が少なく、オンラインや書面での研修がほとんどでした。

### 【食養】

#### 1、2021 年度の総括

2021 年度も新型コロナウイルスの感染が終息せず感染対策を継続しています。感染拡大の影響で世界的に物流の往来が悪化し、燃料費・人件費の高騰、異常気象の影響で原材料が不足して食材の高騰が続き、献立作成などに影響しています。

普段の業務では、ヒヤリハットを多く挙げられるよう取り組みました。毎月の会議の議題として取り上げ、その内容を事故対策委員会に報告し、他部署の意見を聞き、事故の件数を減らすことができました。勉強会ではデイサービスの相談員から、デイサービス利用者様の食事について色々と話しを聞くことができました。

#### 2、具体的な取り組みについて

①近年、デイサービス利用者様の食形態・嗜好は多様化してきています。刻み食・一口サイズの食形態が多くなり、その日の利用者様の体調によっても食形態が変わるため、その都度対応しています。嗜好面も多様となり、パンを希望される方にはパンの提供を行っています。食事アンケートを実施して、食事の味付けなどについて伺いました。味付けが丁度良い（美味しい）という声が多く寄せられました。

②ケアハウスの入居者様は、新型コロナウイルスなどの影響で外出を控えています。外食の機会が減ったため、ケアハウスの職員と協力し、「テイクアウトの日」を設けました。入居者様が好きな料理を選べるようにしています。

食事アンケートでは、生野菜・果物の要望が多くあったため、朝食のパンの時に野菜サラダ、日曜日の昼食に果物を提供しました。月 1 回行っている「朝粥」の献立も好評の意見が多く寄せられました。

③ショートステイでは、デイサービスの利用者様と同じように、食形態・嗜好は多様化しています。常食を食べている方よりも、刻み食、1cm角、一口サイズの食事を食べる方が増えています。体調の変化により食欲がないため、「お粥」や「消化の良い物」などの要望にその都度対応しています。長期滞在の方も増え、だんだんと食事量が減っている方もいます。その方には低栄養の予防としてヨーグルトやゼリーなどを提供しています。

④行事食は、食事委員会にて日程・日数を決め、献立も要望を取り入れ工夫しました。デイサービスの敬老会は 6 日間行い、前半と後半で献立を変え提供しました。

⑤今年度はヒヤリハットを挙げて、事故を減らすよう取り組みました。今までは、ヒヤリハットの事例があっても「今後は気を付けよう」で終わりにしていましたが、今年度はヒ

ヤリハット報告書を提出するようにし、会議で原因と再発防止策を検討しました。食事表や食札の見間違いからの盛り付けミスや配膳間違いが多かったです。盛り付けの順番、盛り付け後の確認の仕方、名前の記入方法などを見直し間違いが少なくなりました。

⑥勉強会は、デイサービス相談員の話聞き、デイサービスでの食事の目的、利用者様の家庭での食事内容、選ばれるデイサービスになるためには食事が大変重要という話を聞き参考にしていきます。

### 3、今年度の行事食の内容

月	行事名	献立内容
5	子供の日	ちらし寿司、若竹煮、カニマヨネーズ和え、抹茶ババロア
7	七夕祭り	ちらし寿司、冬瓜のあんかけ、ツナのおろし和えサラダ、杏仁豆腐、素麺汁
7	土用の丑の日	鰻井、里芋煮付け、奈良漬、清汁
8	お盆	おはぎ、南瓜そぼろ煮、ホウレン草の胡桃和え、おくずがけ
9	敬老会	赤飯、天婦羅、茶碗蒸し、ずんだ和え、マンゴープリン、清汁
10	芋煮会	栗ご飯、松風焼き、一夜漬け、芋煮、ヨーグルトかけ
12	忘年会	海鮮井、天婦羅、茶碗蒸し、水菜の胡麻和え、清汁
12	クリスマス会	エビピラフ、ビーフシチュー、ナスと雪菜の胡麻あんかけ 南瓜とさつま芋のサラダ、フルーツポンチ
1	お節料理	有頭海老酒煮、筋子盛り合わせ、お節用炊き合わせ 黒豆、栗きんとん、松風焼き、あんこ餅、お雑煮
1	新年会	ご飯、刺身盛り合わせ、茶碗蒸し、せりと笹の酢味噌和え フルーツ、茶そば汁
2	節分	豆ご飯、穴子の卵とじ、イクラおろし、南瓜そぼろ煮
3	ひな祭り会	ちらし寿司、露の甘辛炒め、里と海のぬた和え、 イチゴババロア、清汁

## 十符・風の音/デイサービスセンター木の実/風の音サテライト

長期入居部門では、入居申込数が40件程度（史は20件）で推移し、さらに要介護度4・5の方が減少、慢性疾患の重症化により入居後1年も経過せずに退居される方が増加しています。今年度は退居数をあらかじめ多く設定し、効果的な実調等を行ってきましたが、それを上回る退所数に目標稼働率への到達が叶わぬ結果となりました。

ショートステイでは前年以上に入院者が増え、そのままご利用がなくなり、新規利用者を確保するために苦慮した1年となりました。新規は短期間での利用が多いため、キャンセルカバーに十分な効果は得られない結果となりました。デイサービスは人員の確保が進まず、土曜日の開所ができない状況が続いています。どのサービスにも共通しますが、要介護度が軽度化したことや利用料の負担増などから、利用控えや入居辞退等が増加傾向にあるようです。健全な経営をするために目標稼働率の追求や経費削減にも工夫が必要で実践してきたつもりはありますが、施設の建物や設備関係の老朽化に伴う改修工事も必要で、さらなる努力が必要だと感じています。

事故については重大な事故が数件ありました。事故は限りなくゼロに近づけることを目標としますが、起きてしまった事故について、同じことが起きぬように原因分析を行うことや、事故時の初動、普段からの家族との交流の重要性を改めて感じました。脆弱な部分が露呈したこともあり、今後改善すべきこととして継続討議していきたいと思えます。

施設開所してから風の音は17年、サテライト史は6年が経過しました。新型コロナウイルスによるパンデミックが始まって3年目を迎える2022年度は、今までの知識と経験を活かし、新たな挑戦と堅実な運営をしていきたいと考えています。

### 【風の音長期入居】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受入可能延利用者数	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,500	1,550	1,500	1,550	1,550	1,400	1,550	18,250
実績延利用者数	1,481	1,519	1,484	1,523	1,503	1,419	1,488	1,436	1,510	1,506	1,342	1,487	17,698
稼働率	98.7%	98.0%	98.9%	98.3%	97.0%	94.6%	96.0%	95.7%	97.4%	97.2%	95.9%	95.9%	97.0%
平均介護度	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
1日現入居者数	48	49	49	50	49	49	48	48	48	49	49	48	48.7

### 【風の音短期入居】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受入可能延利用者数	300	310	300	310	310	300	310	300	310	310	280	310	3,650
実績延利用者数	323	314	303	314	323	324	328	290	314	309	265	295	3,702
稼働率	107.7%	101.3%	101.0%	101.3%	104.2%	108.0%	105.8%	96.7%	101.3%	99.7%	94.6%	95.2%	101.4%
平均介護度	2.4	2.3	2.5	2.5	2.5	2.6	2.6	2.7	2.8	2.7	2.5	2.7	2.6

## 【デイサービスセンター木の実】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
予算延利用者数	440	420	440	440	440	440	420	440	440	420	400	460	5,200
実績延利用者数	204	209	227	248	233	229	230	224	218	205	215	226	2,668
稼働率	46.4%	49.8%	51.6%	56.4%	53.0%	52.0%	54.8%	50.9%	49.5%	48.8%	53.8%	49.1%	51%

## 【風の音サテライト史】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受入可能延利用者数	570	589	570	589	589	570	589	570	589	589	532	589	6,935
実績延利用者数	522	543	492	512	536	539	509	524	519	489	452	511	6,148
稼働率	91.6%	92.2%	86.3%	86.9%	91.0%	94.6%	86.4%	91.9%	88.1%	83.0%	85.0%	86.8%	88.6%
平均介護度	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.5	4.5	4.4	4.3	4.4
1日現入居者数	17	17	18	17	17	17	19	18	18	16	17	17	17.3

## I 風の音長期入居部門

〔生活相談員〕

### 1、目標

入居者・ご家族が安心して入居できる特養を目指します。達成

感染対策を継続する1年となりましたが、受け入れ態勢にご理解いただき、様々なツールも利用しながら取り組みました。

### 2、具体的取組

①実態調査の際には、入居されてからの過ごし方や料金など細かなところも説明し、入居がスムーズに運べるようにします。達成

②公平な入居が進められるよう、受け入れる側の環境や対応についても検討します。達成  
優先順位の高い方はもちろんですが、空き部屋・ユニットの状況など、どんな方の受け入れが可能かを検討しながら公平に入居が進められました。

③利府町保健福祉課の担当職員にも参加して頂き情報収集や、助言を頂きます。達成

④入居者の情報を他部署と共有することで、これまでと同じ暮らしのお手伝い出来るよう努めます。達成

聞き取りで得た情報を関係部署へ申し送りし、環境が変わっても、好きなものやこだわりを持ち続ける暮らしのご提供ができました。

### 3、全体の総括

空床期間を短くするため、早めの実態調査を行ってきましたが、待機期間に他施設への入居が決まったり、お亡くなりになる方もあり、思うように入居に結びつけないケースが多くありました。結果、目標稼働を上回ることがほとんどなく経過しております。次年度は具体的な活動計画を作成することで目標稼働に近づけるようにします。

### 4、入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居数	1	0	1	0	0	0	1	1	2	0	1	1
退居数	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	2	1

## 〔施設ケアマネジャー〕

### 1、目標

入居者の自立支援（自己決定の尊重・残存能力の活用・生活（サービス）の継続性の尊重）を念頭におき、本人主体のケアプラン作成に努めます。概ね達成

### 2、具体的取組

①3カ月毎のモニタリングの際、ケア記録を確認します。達成

半年毎のケアプラン見直しに合わせ、中間でスタッフのケア記録を確認し疑問点等は各専門職に再度確認を行う事で利用者の体調の変化等を把握する事が出来、半年毎のプラン作成の際は、各専門職への確認作業等短時間で済ませる事ができました。

②他職種・ご家族より情報を収集し共有します。達成

上記記載により各専門職より都度情報収集実施しました。入退院や看取り期に入った利用者ご家族には、都度電話や来所時に状況説明及び意向確認を行うなど行いました。

③認知症・権利擁護等に関する外部研修に参加します。達成

研修参加回数は少ない物の、「宮城県高齢者権利擁護推進研修②権利擁護推進員養成研修」に参加。改めて自分の作成しているケアプランの言葉の表現等に間違いがある事に気づきました。また、「本人に意向を尊重した意思決定の為に研修会」では重度の認知症や意思疎通に問題があっても、自分の命の終焉には自己決定権があり本人の表情等から本人の意思をくみ取る努力の必要性などを学び改めて難しさを感じました。

## 〔ユニットリーダー〕

### 1、目標

働きやすい環境づくりに取り組みます。達成

ユニットの抱える悩みや働き方について話し合うことができました。

### 2、具体的取組

①話やすい、相談しやすい会議になるように運営します。達成

②リーダー会議にて各部署の報告やリーダー同士が抱えている悩み、施設全体で改善しなければならない問題を話し合い解決します。課題について積極的に意見を出し合い、より働きやすい環境づくりに努めます。達成

③ご家族からの意見や大きな事故に関して報告し、原因や対策など情報共有をして話し合います。達成

解決までに至らないこともありましたが、これまでの会議よりも話し合いの場となり悩みや課題について話し合うことができました。

④職員へ新しい情報を伝えるため外部の研修へ参加し、リーダー会議やユニット会議内で内容の周知を行います。未達成

外部の研修への参加はあまりできませんでした。来年度は学びたいことをリーダー会議の中で相談し、参加できたらと思います。

⑤会議内で勉強会を開催します。達成

⑥各職員へ能力に合わせた助言や教育が出来るように情報の伝達、説明能力、判断力向上に努めます。達成

⑦情報を共有しユニットの問題や改善すべき点を話し合います。また定期的に振り返りを行い、課題への解決に繋がります。達成

### 3、全体の総括

上半期はリーダーの入れ替わりもあり、会議の進め方が上手くいかず相談の場ではなく報告の場になっていました。下半期は会議の中に課題や悩みを話し合う時間を設け、話し合いをすることができました。課題や問題を解決することは難しいですが、1つでも解決できるようリーダーで協力して取り組みたいと思います。来年度も会議が相談の場になるように行っていきます。

## II 風の音短期入所

〔生活相談員〕

### 1、目標

利用者、ご家族が安心して利用することができるケアと環境を提供します。ケアマネジャーに選んでもらえ、安定した稼働を維持します。達成

急な利用希望や体調変化でいつもより長い利用を希望された際にも受け入れる体制ができており、安心して利用してもらうことができました。ケアマネからも「風の音ならと思って」と紹介を頂く事もあり、選ばれる場所になっていると感じています。

### 2、具体的取組

①ご自宅でのケア方法や環境等をできるだけ正確に確認し、情報を迅速に（口頭・メール）伝え、他職種とチームになってケアを提供します。達成

②初回利用状況を退所日にケアマネジャーへ報告し、モニタリング前に情報共有を行います。達成

③ケアマネジャーへ利用状況が具体的に伝わる報告書を毎月作成します。達成

④1人1人の生活スタイルや楽しみ等を確認し、利用中も自分らしい生活が継続できるように支援します。達成

⑤ご利用の様子が伝わる写真の提供や記録を作成します。積極的にコミュニケーションを図り（送迎や日々の電話連絡の際）、家族の思いを理解しながら関係作りに努めます。

達成

⑥ご利用時の様子を日頃から丁寧に報告し、苦情を未然に防ぎます。達成

⑦ご本人・ご家族の訴えの真意を考え丁寧に対応していきます。達成

⑧その方にあった環境整備を行い、事故防止に努めます。未達成

⑨苦情や事故発生時には迅速に事実確認・原因の分析を行い具体的な対策を検討します。未達成

苦情は0件でしたが、上半期に骨折事故が2件ありました。本人、ご家族への対応を迅速に行い、ご希望に沿うことで円滑に進めることができました。

### 3、全体の総括

今年度も長年利用して下さった方がお亡くなりになる、家で見るのが難しい方のロングショートも他施設入居によりキャンセルになるなど、空いた部屋をどう埋めていくか悩んだ月もありました。又、上半期に骨折事故が2件ありましたが、本人、家族への対応を迅速、丁寧に行うことができました。難しいケースであっても現場の職員の受け入れ体制が出来ており、在宅と同じケアを行うことが出来ました。来年度もチームワークを大切に利用者に向き合っていきます。

### 4、キャンセル状況

	施設入居	他SS利用	入院中	体調不良	本人の不安	家族の都合	日程変更	死亡	その他	計	キャンセル前年比	カバー日数	カバー率
4月	3	3	35	6	0	3	4	10	19	83	146%	80	96.4%
5月	6	7	27	5	0	6	1	0	15	67	114%	60	89.6%
6月	14	6	24	3	0	4	2	5	25	83	115%	72	86.7%
7月	0	12	36	0	0	3	9	0	10	70	152%	46	65.7%
8月	0	24	35	2	3	9	1	0	6	80	125%	83	103.8%
9月	3	7	46	2	0	4	5	0	12	79	108%	58	73.4%
10月	19	0	32	9	0	4	7	0	4	75	100%	61	81.3%
11月	19	0	33	18	0	9	1	0	6	86	143%	45	52.3%
12月	2	0	36	2	8	12	2	0	0	62	78%	23	37.1%
1月	5	21	42	4	2	24	2	0	2	102	97%	67	65.7%
2月	17	16	43	0	8	15	4	5	2	110	89%	73	66.4%
3月	27	0	25	2	2	6	10	0	16	88	58%	87	98.9%
日数計	112	93	379	47	23	96	44	10	98	902	99%	675	76.44%

## Ⅲ デイサービスセンターの実

### 1、目標

- ・ゆとりある豊かな時間を体験できるように環境を整え、利用者一人一人の意向に沿ったケアの実現を目指します。達成

- ・余暇活動やレクリエーション、行事等を通して、楽しみのある活動の提供と適度な運動を行って身体機能を維持できるよう支援します。達成

特に余暇活動では創作や趣味活動を提供して、満足度も高い評価が得られました。

### 2、具体的取組

①利用者の生活の質向上を目指すため、個別機能訓練や生活リハビリに積極的に取り組みます。達成

②入浴や排泄介助時には利用者の羞恥心に配慮した対応や声掛けを行い、利用者の自尊心を守ります。未達成

誘導時の声掛けでは個別化を図れるように注意する必要がありました。

③利用者の状態やサービス内容の変更点など、情報共有を密にして、どのスタッフが支援



しても同一な支援が出来るようにスタッフ間の意思統一を図ります。未達成

月1回のケース会議を開催してサービス内容や変更点を確認していますが、周知しきれない面もありました。利用者の変化に臨機に対応できるスキルを身に着けます。

④家族や担当ケアマネジャー、他の事業所と連携を図りながら、利用者の体調管理や情緒の安定を図れるように取り組みます。達成

⑤転倒や誤嚥などの介護事故に対してのリスクマネジメントの学習を行います。ヒヤリハット事例を通して事故を未然に防ぐ取り組みを行います。未達成

転倒事故は最小限に留めることが出来ましたが、なお一層の学習を行い未然に防げるスキルを獲得していきます。

⑥苦情に対しては真摯に受け止め、速やかに解決策や対応の検討を行います。早期に報告を行い、以後の再発防止に努めます。達成

### 3、2021年度稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新規利用者数	2	1	2	1	2	0
平均介護度	1.5	1.8	1.7	1.6	1.6	1.5
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規利用者数	1	1	1	4	0	3
平均介護度	1.5	1.4	1.4	1.2	1.3	1.2

※終了者・令和3年4月～令和4年3月（13名）

### 4、全体の総括

開設後、2年が経過しました。利用者の状況は、新規受け入れ数と同様に近い終了者がおられ、登録者数的には著しく増えているという状況ではありません。体験利用者の受け入れは積極的に行うも、土曜日の営業が無いことで利用に結びつかないケースもあると感じます。来年度は土曜日の営業に向けて取り組んでいきます。

利用者への対応としては、自立支援と在宅生活の継続に向けて、日常生活動作の訓練や体操、認知症予防に向けての頭の体操などを積極的に行いました。来年度も、家族や担当CMと連携を図りながら、利用者が余暇を楽しみ、健康を維持して生活を送れるように支援して参ります。

## IV 各部署

〔食養部門〕

### 1、目標

・入居者・利用者ひとりひとりの生活史に寄り添い、楽しめる食事・行事を提供します。

達成

・コミュニケーションを取りながら、安全を意識し日々の業務を行います。達成

### 2、具体的取組

①サービス担当者会議や日々のミールラウンドで、多職種連携のもと意見交換を行いながらひとりひとりに合わせた食事を提供できるよう努めます。達成

②サービス担当者会議や面会等の場で家族とコミュニケーションを図り、入居者・利用者の嗜好やそれまでの食の歴史を把握し、楽しめる食事・行事の提供が行えるよう努めます。未達成

コロナ禍で面会制限がある中、思うようにコミュニケーションを図ることが出来ませんでした。

③食養内で意見交換を行い、それぞれの意見を尊重し合いながら業務の改善に努めます。達成

### 3、全体の総括

コロナ禍でご家族をはじめ職員間でもコミュニケーションが上手く図ることが難しい場面はありましたが、出来る限り日々の食事の様子を観察し意見交換を行うことはできました。情勢を見ながらではありますが、ご家族とのコミュニケーションを今後行える時に行い、多職種間での連携もこれまで以上に行っていきたいと思えます。

感染症対策をはじめ、食中毒事故が起きないようにしっかりと意識付けを行いながら引き続き業務を行っていきたく思います。

### 4、行事状況報告

- ・食養部門会議（毎月）
- ・行事食（給食会社の献立に準ずる）

〔医務部門〕

#### 1、具体的取組

①他職種とコミュニケーションをとり入居者、利用者の情報共有に取り組みます。未達成  
他職種者の協力を得ながら利用者の大きな変化の情報は共有出来てきて来ましたが、しかし小さな変化についても、相談でき、情報を共有していける環境作りがまだ不十分なところが見られました。

②嘱託医と連携を取り常に相談できる関係を築きます。達成

嘱託医との連携は取れてきており、相談しやすい環境が出来てきています。

③入居者、利用者の状態変化時、事故などの時十分な説明を行います。達成

④医療的アドバイスを行っていきます。達成

十分な説明を行っているつもりですが電話では説明不十分なところが出てきていましたが、面会時説明不足な所を補うことが出来ました。嘱託医に病態相談しながら、わかりやすく医療的なアドバイスが行える環境が出来ています。

⑤予防接種が円滑に行えるよう努めます。達成

コロナ予防接種は嘱託医や他の医師の説明を受けながら接種部位、接種会場設営も適切に行え、3回の接種もスムーズに行えました。インフルエンザワクチン接種についても嘱託

医と相談し優先順位を定め、適切に施行出来ました。

## 2、総括

嘱託医や他医師との連携がスムーズ取れるようになり、感染症発生時の対応が相談しやすくなってきていることなど改善点も見られました、今後嘱託医に相談など行い利用者、ご家族へ十分な説明、アドバイスをを行い、小さなことまで情報の共有に取り組んでいきます。

### [機能訓練]

#### 1、目標

- ・入居時及び3か月に一度、個別機能訓練計画の作成・説明を行います。達成  
3か月以上にならないよう、予定を組んで作成を行いました。
- ・利用者の身体機能に合わせた生活支援の提案やサービス提供をしていきます。達成  
状況が変わるごとにユニット職員と相談しながらその時々状況に合わせて提供できました。

#### 2、具体的取組

- ①他職種と情報を共有するために、ユニット会議へ参加します。達成
- ②入居者に関する記録を詳しく入力します。達成  
生活リハビリの様子や気になったケースについて個別記録に記載しております。
- ③評価結果の報告や、その後どうしていくかを他職種と相談し、利用者の生活に反映できるようにしていきます。達成  
サービス担当者会議や随時ユニット職員と相談しながら行えました。
- ④個別機能計画書を作成し、面会時には直接説明、それ以外は郵送でお知らせします。機能訓練の視点での利用者様の状況もお伝えしていきます。達成
- ⑤福祉用具の使用や居室環境、車椅子調整などの環境整備から関わることで安全・安楽な生活が送れるようにします。達成  
環境を整えることで安全安楽はもちろん、身体機能低下を防ぐことにもつながりました。

#### 3、全体の総括

他職種や入居者はもちろん、ご家族とも相談しながら、身体機能の低下を防ぎできることを維持できるよう活動・具体的取り組みを進めることができました。

### [事務部門]

#### 1、目標

- ・利用者・職員・ご家族から信頼される事務職員を目指します。
- ・事務職員として必要な知識のスキルアップを図ります。達成

#### 2、具体的取組

- ①経営状況について職責・リーダーに伝えて共有し、今後の経営方針についての検討・提案を行います。達成

②修繕情報等を共有し、少しでも早く対応します。必要に応じて他職種とも情報共有します。  
達成

③施設の窓口として、接遇に気を付けた対応を行いません。年度内で自分自身の接遇の振り返りを行いません。未達成

接遇に気を付けた対応ができるよう心掛けましたが、自分自身の接遇の振り返りまでは出来ませんでした。

④ご家族からの問い合わせに対し素早く対応できるように、日々変化する情報の収集に努めます。達成

⑤オンライン研修への参加等を含め、必要な知識を深めるように努めます。達成

### 3、全体の総括

接遇の振り返り等できなかつた部分もありましたが、職員間で情報共有しながらご家族の対応や修繕の対応をしたり、事務研修や民医連の講座で知識を深めたり、職責会議で経営の報告・討議に参加するようになったりと、目標や取り組みに掲げていたことは概ね出来たと思います。しかしながら、事務研修等に参加するなかで、新たに知識の不足や課題を感じる場面もあったため、来年度以降も引き続きスキルアップを図っていきます。

## 〔LSA（ライフサポートアドバイザー）事業〕

### 1、目標

町営住宅に住む高齢者世帯の方々に必要なサポートができるよう、利府町と連携を図ります。達成

### 2、具体的取組

①葉山シルバーハウジングとその他の利府町営住宅への訪問を行い、入居されている方の健康と生活状態を確認し、毎月利府町へ報告します。達成

②年4回、利府町都市整備課、保健福祉課、地域包括支援センターとのLSA定例会議に参加し情報共有を図ります。達成

③様々な相談に対応できるよう、介護保険をはじめとする制度関係やインフォーマルな社会資源等の知識を高めます。達成

④訪問日に不在の方には、おたよりを投函し、いつでも相談できるような環境を作ります。未達成

数ヵ月は、投函していましたが、途中から投函することを忘れていました。不在の方にも相談できるような環境を作る為に、来年度は継続的にできるよう取り組んでいきます。

### 3、全体の総括

定期的に利府町との関りがあり、情報共有もできています。

生活の中での変化に気づき、困っていることに迅速に対応できるよう今後も働きかけていきたいと思います。

[ボランティアコーディネーター]

### 1、目標

入居者の生活が豊かになるようにします。未達成

何も取り組むことができませんでした。外からの協力が難しい中ですが、楽しめるような企画を検討し、取り組んでいきたいと思います。

### 2、具体的取組

①ボランティアと協力しながら、今できることを考えていきます。未達成

ボランティアに連絡を取りましたが、コロナ感染が落ち着いてからと話があり、協力しながら取り組むことは出来ませんでした。

②オンラインを活用し、楽しみや生きがい等が感じられるような工夫をしていきます。

未達成

オンライン教室を開催しようと講師の先生に提案をしましたが、慣れないことに躊躇され、開催までに至りませんでした。

③多職種と情報を共有し、利用者の楽しみを見つけていきます。未達成

コロナ感染者が増える中で、他ユニットへの出入りも控えており、入居者と一緒に取り組むということもありませんでした。

### 3、全体の総括

積極的にボランティアの受入れは出来ない中でも、何かできないかボランティアに相談をし、提案を行いました。コロナ感染が落ち着かない中では、施設と距離を置きたいと話される方が多くいました。中には、以前のように演芸や教室を施設内で行ないたいとの話もありましたが、外部の方を施設内に入れることはできず、実現できませんでした。具体的取り組みには、記載していませんでしたが、ボランティア委員会でボランティアについての勉強会を開催しました。ボランティアの必要性等を話し合いました。入居者の生活が豊かになるように出来ることを見つけて行きたいと思います。

### [参考資料] 事故件数 (風の音長期、短期、木の実)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
転倒	2	5	2	9	3	4	2	2	3	1	3	4	40	133%
転落・滑落	8	2	11	3	2	3	1	2	1	9		1	43	134%
誤嚥・窒息				3									3	100%
誤薬・誤配		4	2	1	2	2	1					1	13	108%
異食・誤飲			1					1	1				3	#DIV/0!
紛失・破損	1	1		1									3	150%
無断外出		1	4		1		1	1					8	200%
褥瘡													0	0%
自傷による外傷等	7	3	7			2	6	2	5	6	3		41	132%
介護中の外傷等	2		6	5	1	1	3	1	2	2	2	2	27	63%
原因不明の外傷等	10	12	14	22	17	8	9	8	1	4	3	5	113	100%
その他		2	1	1	1	3		1	1				10	59%
計	30	30	48	45	27	23	23	18	14	22	11	13	304	104%

## V サテライト史

### 1、目標

地域、家族に愛される施設にしています。未達成

感染予防の為、家族や地域と一緒に活動することが難しい状態です。家族とのかかわりについて、関係を作る活動を実施で来ていない。今後の課題として取り組みます。

### 2、具体的取組

①ご家族と日頃の情報共有を行い、協力体制を作ります。未達成

直接面会ができなくなり、家族との情報共有が少なくなっています。居室担当が中心になり、定期的に連絡を行います。

②本人、ご家族の意向を確認しながら取り組みます。達成

③職員間の挨拶や声掛けを増やし、協力ユニット間の協力体制を作ります。達成

④入居者の状態変化に合わせ、柔軟に職員を配置できる体制を作ります。達成

勤務時間を柔軟に変更することができています。

⑥必要時、内部学習会を開催します。達成

⑦必要時、外部研修へ参加します。達成

Web研修でしたが、ポジショニング、感染症予防等参加しています。

⑧感染状況に合わせ、予防対策を実施します。達成

### 3、全体の総括

感染症対策を行い、予防することが来ています。感染予防により、面会の制限や家族と直接話をする機会が減少することで、報告・連絡・相談が滞る事態が起き、苦情となっています。次年度の課題として取り組みます。

入退居も多くあり、その方に合わせた生活を考え取り組み始めています。

[施設ケアマネジャー]

### 1、目標

現状と今後の生活について確認できる話合いの場を作ります。達成

### 2、具体的取組

①話合いで使用する資料について、必要時わかりやすい物へ変更を行います。達成

その都度、状態に合わせた数値や服薬表、体位交換や車いす座位姿勢の写真を用意、介護アセスメントシートを活用して説明しています。

②伝えるだけの内容と検討すべき内容を分けて確認します。達成

私の医療希望書の取り直しをしています。

③ご家族の意向を聞き取りながら一緒に考えていきます。達成

④必要時、嘱託医に相談しご家族との話し合いの場を作ります。達成

医師からの状態説明 4件

⑤外部研修に参加し、コミュニケーション技術の向上に努めます。達成

地域のケアマネジャー研修会、組織内の研修に参加し知識の向上に繋がっています。

### 3、全体の総括

生活の状態を伝え、これからのサービス内容を確認することができています。

- ・サービス担当者会議 62件
- ・介護保険更新 8件      ・介護保険区分変更 2件

### 4、入退居状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居数	1	1	0	1	1	1	0	0	0	3	1	1
退居数	1	0	1	1	0	0	0	1	2	2	1	2

### 〔参考資料〕 事故件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
転倒													0	0%
転落・滑落	1			1	2	3							7	175%
誤嚥・窒息								1					1	#DIV/0!
誤薬・誤配		1	1	1	2			2		1	3		11	183%
紛失・破損	1			1									2	100%
褥瘡				1	1	2	1	1	2				8	800%
自傷による外傷等	2	4	2	6	4	3	2	1		6	1	1	32	168%
介護中の外傷等	3	2	2	1	3	2		2	4	2	1	3	25	208%
原因不明の外傷等		2	2				1	1	1		1	3	11	73%
その他						1		1	1		1		4	133%
計	7	9	7	11	12	11	4	9	8	9	7	7	101	160%

## デイサービスセンターくりこまの里

2020年度は職員採用が進み施設運営に光が差した年となりました。また、認知症対応型の管理者も確保する事ができ2021年2月には認知症対応型が再開することができました。2月からの再開という事もあり、経営面では厳しい状況の1年間でした。施設の管理職を育成する必要があり、本部より施設長を配置し運営面の改善と職員の採用、定着、育成に取り組み組織の再構築をすすめました。

今年度は、予算管理など経営面での討議ができていませんでした。その反省を踏まえ、新しい職員体制で安定した経営基盤づくりと、自立した組織を目標に、職員一人一人が取り組んでいけるようすすめていきます。

### I 事業規模

#### 1. 各月ごとの利用者数と収入

##### 1) デイサービス I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	26	26	26	27	26	26	27	25	27	26	24	27
定員	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
利用者実績数	590	582	606	660	631	652	685	566	583	589	495	568
利用者/日	22.7	22.4	23.3	24.4	24.3	25.1	25.4	22.6	21.6	22.7	20.6	21.0
稼働率	75.6	74.6	77.6	81.4	80.8	83.5	84.5	75.4	71.9	75.5	68.7	70.1
収入(千円)	5,237	5,052	5,286	5,917	5,904	5,631	5,731	4,680	4,771	4,896	3,982	4,609

##### 2) デイサービス II

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数											24	27
定員											12	12
利用者実績数											68	82
利用者/日											2.8	3.0
稼働率											23.6	25.3
収入(千円)											847	1,911

##### 3) 居宅介護事業所(支援含む)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
収入(千円)	584	588	622	681	684	658	661	664	660	646	627	626



## II. 各事業所・部門別

### 1. デイサービスセンターくりこまの里 I

#### 1) 利用者動向

##### ① サービス利用開始・終了者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
サービス利用開始者数	1		3	1	1	1	2	2					11
サービス利用終了者数	3	1	1	7		4	1		3	4			24

##### ② サービス利用終了の理由

理由	死亡	施設入所・入院	認知症型移行	他のデイに	転居	不調	ショート中心	その他	合計
人数	9	15							24

#### <目標>

- ・稼働率 80% (85~90%最終目標)

職員体制も不安定で、新規の獲得もできず達成できませんでした。

- ・利用者の自己選択、自己実現できるサービスを実践します。
- ・運動や活動を通じて、自然に集まる和みの空間を提供していきます。

#### <具体的取り組み>

- ① 「活動計画」を利用者様との会話から意見を取り入れ作成し実施していきます。
  - ・こまフロアの活動ではその日の利用者様の希望に合わせて、活動内容を変更し実施できたこともありました。活動計画作成の際も、活動を通じて人気のある活動やお好きな活動を聞きながら作成することができました。
  - ・利用人数が少ない日や職員の人数により対応ができない日には、こまフロアを開けることができないことが多かったです。
  - ・活動を計画してもドライブでは同じ場所の繰り返しとなり、「またか」との声も聞かれ、場所の工夫が必要でした。また、ドライブへ行く日数が少なく行けない方も多かったです。
- ② リハビリ体操やラジオ体操に参加して頂きます。
  - ・現在、機能訓練が行われていないため、リハビリ体操やラジオ体操を毎回行うことで、身体を動かす機会となりました。
  - ・リズム体操等を取り入れ、楽しみながら身体を動かす機会を提供しました。
  - ・リズム体操では、月毎に曲を決め、「なるこ」も使用して行うこともあり、楽しみながら参加する姿が見られました。

## 公益部門

### 1 指定居宅介護支援事業所

#### 1) 利用者動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
支援開始数	2	1	5	2	2	1	6	2	2	1	0	2
支援終了数	1	0	0	2	1	1	1	3	4	2	0	0

#### 支援終了理由

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
死亡の為				1		1	1	1	2	1		
入所／入院	1			1	1			2	2	1		
他事業所利用												

#### <方針>

- ・介護保険の改正点を熟知し、法令順守に努めます。
- ・ご利用者様、家族に適切なサービスの提案、情報提供を行い在宅生活の支援を行います。

#### <具体的取り組み>

- ① 研修への参加を通し、介護保険情報を周知していきます。
  - ・今年度は新型コロナウイルスの感染予防のために研修自体が例年に比べ激減していた。外部研修参加は市開催の虐待対応研修一つにとどまったが、新聞やネットなどから介護保険情報に注視して居宅内で共有することができた。
- ② 個別ニーズを支援できるよう、関係事業所との連携を強化します。
  - ・高齢者の心身状態は常に変化が伴うため、モニタリング時に限らず必要時は関係事業所との情報共有に努めることができた。
- ③ ご利用者様、家族との信頼関係をつくり、在宅生活の支援者として適切な業務遂行を行います。
  - ・サービスをつなぐことだけでなく、ご利用者様の生活全体をみることで課題を見極めその人が望む生活に近づけられるよう努めた。
- ④ 事業所内、併設施設との協力体制を強化していきます。
  - ・併設事業所からの必要な情報が届いてこないことがあり、こちらからの情報の引き出し方の検討も必要と感じられた。

## II 苦情

苦情 0件

苦情はありませんでしたが、今後も丁寧な対応を心がけます。

## III 消防防災計画

- ・避難訓練は計画通り開催しています。防火設備点検を、定期に実施しました。

## 介護老人福祉施設 田子のまち

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の中で、感染対策を最優先課題とし入居者の皆さんの健康と命を守るとともに、現場で出来ることの取り組みを進めた一年になりました。学校・保育所等での感染も見られ、職員の家族が濃厚接触か判断するための期間、勤務が出来ないなどの状況もありました。職員が互いにカバーしながら勤務してきました。BCP を検討する中で得られた、業務の進め方など考え方の整理により業務を進めています。

介護報酬改定により LIFE への対応が求められ、生活相談員・ケアマネジャーを中心に対応を進めました。対応が求められている BCP の策定へ向けた議論も進めてきました。次期報酬改定への議論もこの春から始まっています。これまでの改定内容について、対応を進めながら次の改定に臨みます。

経営活動では年間稼働率 94.3%となり、目標の 95%には届きませんでした。前年度を大きく上回り奮闘しました。職員体制では退職が減少し安定してきています。新入職員の研修制度を創設したことや、現場の中で職員が育てられる職場に努力してきた結果が見えてきています。また、外部からのボランティアと介護養成校からの実習受け入れも行いました。現場の中で外部講師を招いての研修やユニットリーダー研修へ 2 名の職員を出すなど、研修にも力を入れて取り組みました。よりよいケアの実践とそれを担う職員育成を両輪として進めます。

長期にわたる感染症対策、緊急の代替勤務、プライベートも含めた自粛を続ける職員のメンタルヘルスへ取り組みが不可欠と改めて感じています。モチベーションを保つにはひとりひとりの職員がよりよいケアをし、そのことで入居者の皆さんとの関係を築くことで、やりがい感じられるよう取り組みたいと考えます。

「二度とないこの瞬間（とき）を、“あなたらしく”輝ける場所に」という施設理念のもと一丸となり力を合わせていきたいと思えます。

### 【2021 年度稼働率・平均介護度】 上段…月 中段…稼働率 下段…平均介護度

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
93.4	91.9	91.0	93.3	93.2	96.0	96.8	95.6	95.2	95.2	94.3	95.3
3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9

### 【要介護度別】

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
0 名	3 名	21 名	37 名	18 名

**【保険者別】**

宮城野区	青葉区	若林区	太白区	七ヶ浜町	塩釜市	気仙沼市
57名	2名	4名	1名	2名	3名	2名
多賀城市	柴田町	岩沼市	福島市			
5名	1名	1名	1名			

**【性別・平均年齢】**

	人数	平均年齢(3月末時)	最少年齢	最高年齢
男性	13名	83.4歳	69歳	95歳
女性	66名	86.6歳	63歳	100歳
計	79名	86.1歳		

**【入退居状況】**

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居	2名	2名	2名	2名	1名	4名	2名	1名	4名	0名	3名	2名
退居	2名	3名	0名	3名	1名	3名	0名	4名	2名	0名	3名	0名

**【施設ケアマネジャー】**

## 1. 2021年度総括

昨年度に引き続き、コロナ禍で様々な制限がある中での対応となりました。その中でも出来ることを模索し多職種で協力しながら様々な取り組みを行えたことは、入居者様にとってもご家族にとっても喜びの一つに繋がったと思います。ただ、直接ご本人に会う機会が少ないこともあってか、ご家族にケアプラン作成に合わせて意向を確認しても「あれをさせたい」「これをしてほしい」ということよりも、「お任せするしかない」と消極的な言葉が聞かれることが増えたように感じます。現状維持だけを目標にするのではなく、楽しみや喜びが一つでも増やせるよう、ケアの視点を伝えていく役割としてケアプランを作成していきたいです。そして、ご本人の様子についてご家族と情報交換を密に行うことで、ご家族と一緒に生活を作り上げていけるよう、信頼関係を深めていきたいと思います。

職員体制ではケアマネジャーが3名体制となり、毎月のケアマネ会議の中で各担当の進捗状況を確認しながら業務の振り分けを行いました。それぞれ現場業務に入ることも多く、なかなか顔を合わせての情報交換が出来ないこともありましたが、PC内で進捗状況を共有する表を作成したことで、お互いに確認しながら一連のケアマネジメントを進めることが出来ました。来年度は支援ノートなども活用し、さらに一歩踏み込んだサポート体制が作れるよう、情報共有を密にしていきたいと思います。

## 2. 2021年度取り組み

- ① 認定更新申請について、仙台市19名、多賀城市2名、塩竈市2名、七ヶ浜町・気

仙沼市・釜石市・福島市各 1 名、の計 27 名。また区分変更については 1 名の申請を行いました。

- ② 定例のサービス担当者会議以外（新規入居、本プラン移行、退院、看取り移行等）の担当者会議は 51 回開催し、そのうちご家族の参加は 5 割程度でした。
- ③ ケアマネジャー主催で看取りについての勉強会を開催しました。

## 【医務】

### 1、2021 年度総括

今年度は昨年に引き続きコロナ禍の為、感染対策に重点をおいての活動になりました。常に最新の正しい情報収集を行い、コロナ情報を職員へ周知することが出来ました。コロナワクチン接種も無駄になる事がないよう人数調整し、嘱託医と協力して希望される方にスムーズに接種出来るよう医務全員で取り組みました。

看取りや体調変化時には多職種と情報を共有、嘱託医と連携し、生活の中で必要な医療提供を行う事が出来ました。

職員に関してはせっかく入職しても定着しませんでした。職員一人一人の考えや思いを話し合えず、理解出来ていなかった為、原因に向き合えていなかったと思います。今後の課題です。

配薬や薬変更時のヒヤリハットは残念ながら 0 にする事は出来ませんでした。今後も対策を検討し、同様の事が起きないように確認しながら、医務全員で話し合うことを大事にしていきたいと思っています。

### 2. 2021 年度取り組み

- ① 感染症の周知徹底を感染症委員会と協力して行いました。ガウンテクニックの方法について、ユニット会議で実践学習を行いました。
- ② 多職種と必要な情報の共有を行い、看取りの方や体調不良の方に対応しました。
- ③ 嘱託医と連携し、円滑に必要な医療の提供が行えました。

## 【食養】

### 1、2021 年度総括

今年度は、日々の業務の改善や新しいことに、食養職員それぞれが積極的に取り組むことが出来た 1 年でした。

委託業者とは、検食簿所見を共有することや担当者と細目に連絡を取り合うことで、今まで以上の連携を図ることが出来るようになったと感じています。また食養の職員が些細なことでも話し合い、解決出来る場を作り、業務に取り組みやすい環境を作ることが出来たのではないかと思います。

栄養ケアマネジメントについては、他職種との連携の強化を図り、より入居者様の情報を共有が出来、入居者様に寄り添った対応が出来ました。

## 2、2021 年度取り組み

- ① 委託業者と検食簿所見を共有するようにしました。また、月に 1 回、旬の果物やデザートを提供する「季節のおやつ」の開始や今年度初めて元旦朝食のお節盛付けに取り組みました。
- ② 新しく清掃チェック表を作成して厨房内の衛生環境を強化し、職員間での食中毒等に関する情報の共有を行いました。
- ③ 他職種との連携や情報の共有を行い、入居者様個人の状態に合った栄養マネジメントを実施しました。
- ④ 食養会議では作業工程と作業内容の見直しを行い、正確でより効率的な業務が出来るよう話し合いました。
- ⑤ 非常食は計画的な払出しと補充が出来ました。また 5 日分の非常食と備品、献立表を整え、ユニットリーダーや食事委員会を介して全職員に周知することにも努めました。

### 【事務】

#### 1、2021 年度総括

今年度は事業計画に基づいた事業の運営のため「経営の見える化」を進めていくことを第一の目標としました。先ず取り組んだことは経営報告書の見直しです。経営の状況や問題点、課題点を伝えるために重視したことは、見やすいこと、分かりやすい言葉で簡潔にすることです。年度初めには 2020 年度決算状況を資料と共に報告し、振り返りと今年度の経営方針を確認出来ました。また、職責間での予算討議には時間をかけ、おおよその方向性を決めた後事務職員が作成するという今までの流れを改善し、予算について（特に収入や介護用品等経費や修繕の優先順位など）常に相談できる環境が整い心強く感じました。職責間でも経営に対する意識が高まったように感じます。今後はリーダーはじめ、全職員にも「見える化」を進め、全職員参加の経営を目指したいと思います。

環境整備については、修繕計画を少しずつ進め今年度はエアコンの大規模修繕を行いました。手つかずになっている雨漏りや施設の不具合箇所については施工会社との打ち合わせを行いました。引き続き業者との打ち合わせを行い環境の改善を進めたいと思います。

目標に立てたホームページの活用が出来なかったことは大きな反省点です。田子のまちを広く地域に発信し、入居者や介護職員の確保に繋がるよう来年度は取り組んでいきたいと思っています。

今年度も共済活動や社会保障運動はすべて自粛という状況でしたが、リモート開催が定着してきており、逆に職員は参加しやすい環境となっています。

9 年目に入り事務職員間のチームワークも深まり、全ての業務がとてもスムーズに安心して遂行できる環境です。今後は感染症の流行も踏まえ、分担している業務内容を見直し緊急時に備えた業務マニュアル作成にも取り掛かりたいと思います。

職員との関わりについても、事務からももっと多職種・現場へ頼る、協力してもらう、意見をもらうなど、事務単独ではなく共同で作りに上げるという雰囲気、信頼しあえる関係性を築いていきたいと思えます。

## 2、2021 年度取り組み

- ① 経営報告資料作成の見直し、決算の報告、予算討議を行い職責間で経営状況、情報共有に努めました。
- ② 施設内の消毒、面会室の整備、感染症対策の為の備品・消耗品の購入、在庫管理を徹底し、業務に支障をきたさないよう努めました。
- ③ 除草作業、車両清掃、窓・網戸清掃を業務委託し施設の整備に努めました。

## 【研修】

### 1、2021 年度総括

今年度は、年間計画にそって進めてきましたが、開催できない月があり、後期に学習会が続いてしまいました。コロナウイルスの影響で、ユニット会議での伝達研修を主として行っていた為、ユニット会議で学習会の時間が多くとられてしまい、大変だったという意見がありました。年間計画に沿った事前の確認と準備を怠ってしまっており反省点です。しかし、昨年度よりも内容は充実したものだったと感じています。高齢者虐待、身体拘束廃止、感染症といった法定で決められているものは、確実に全職員が学べるよう、そして、ケアに活かせるような内容を考え、来年度も開催したいと思えます。

リーダー研修は2名の受講が出来ましたが、施設実習が延期となり、現在4名が講義・演習のみ終了となっています。来年度は実施研修への参加が可能になった際に、勤務調整がスムーズに出来るようサポートしていきたいと思えます。貴重なユニットリーダー研修ですので、研修後の伝達研修環境も整えたいと思えます。

学習会の不参加の理由に「ユニットのケアや業務に追われて・・・」と言われることがあります。スキルアップ、仕事のやりがい、介護の楽しさを得られるような内容、参加できる状況作り、自ら学ぼうとする意識改革、一つ一つクリアしながら、進めていきたいと思えます。

### 2、2021 年度取り組み

- ① 研修開催状況を把握し、報告書の確認をしました。
- ② リーダー会議、委員会で開催し、その後ユニット会議でリーダーや委員が講師となって開催する方式を昨年度に引き続き行いました。
- ③ ユニットリーダー研修を2名受講しました。

4月		10月	認知症学習（33名）
5月	コロナウイルス感染時のゾーニング・対応について（39名）	11月	身体拘束廃止学習（33名） 感染症予防と対策（40名） ポジショニング学習（9名）
6月	高齢者虐待防止学習（22名）	12月	高齢者虐待防止学習（23名） 火傷について（9名）
7月	看取りについて（40名） 身体拘束廃止学習（40名）	1月	
8月	リスクマネジメント～搜索訓練（6名）	2月	高齢者虐待防止学習（39名）
9月	避難訓練 防災マニュアル学習（8名）	3月	夜間想定避難訓練 新人研修

※（ ）内は参加者数を表しています。



## 乳銀杏保育園

2021年度、乳銀杏保育園の運営を以下の通り行いました。

### 1. 事業規模

(1) 入所児童数 定員 120名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
1歳	20	20	20	20	20	20	19	20	20	20	20	20
2歳	21	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
3歳	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
4歳	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
5歳	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22
合計	121	122	122	122	122	122	122	121	122	122	122	122

- ・短時間認定児は1歳児クラス1名(9～12月)でした。
- ・4/16入所2歳児1名。年度途中に、転園・転居等での退園が複数ありました。1歳児は補充されましたが、年長児は補充できませんでした。
- ・3歳児クラスは、職員との検討を重ね、保育の安定のために今年度より22名に減員しました。

(2) クラス編成

- ・計画通りのクラス編成で保育を行いました。2歳児クラス担任をパート職員で配置しました。
- ・育休復帰予定者の復職がかなわなかったため、人材確保ができず計画していた0歳児の途中入所は実現できませんでした。
- ・一時預かり事業については、人材確保ができず再開できませんでした。

(3) 職員体制

- ・パート職員1名が5月末より、正規職員1名が6月初めより産休に入りました。代替は4月に正規職員1名を採用して対応しました。
- ・コロナウイルス感染拡大の影響により、職員が自宅待機等になることが何度かありました。随時、職員体制を検討し対応しました。

(4) 業務分担

- ・計画通り業務分担を行い、保育や運営にあたりました。
- ・管理部内の役割分担と連携をして園運営を行いました。必要に応じてパートリーダー会議等を行い、園内の課題の共有と解決の取り組みにつなげるようにしました。

(5) 保育事業内容

- ・基本的運営は、公定価格に基づいた委託費と各種補助金・利用料(延長保育・主食代・一時預かり・休日保育)によります。2021年度の保育事業収入は以下の通りです。

委託費収入	138,906,360	公定価格・副食費・処遇改善加算 16%・単価改定分 所長・3歳児配置改善・主任専任・事務・療育・栄養管理・休日加算(560万) 入所児童処遇改善(106万)・施設機能強化推進費(16万)
私立保育所等助成	12,034,800	増員保育士・調理員・障害児等保育(6名)
栄養士・看護師雇用助成	1,368,000	
特別支援保育円滑化事業	500,000	
延長保育事業収入	2,872,700	補助金+利用料
休日保育事業収入	6,953,200	補助金+公定価格休日加算 560万+利用料
一時預かり保育事業収入	1,641,200	補助金+利用料 *休日分のみ
就労スタートアップ事業補助金	580,450	対象8名
病原性大腸菌対策助成金	154,460	
キャリアアップ研修参加支援	74,000	6名(幼児教育・障がい児・マネジメント)
コロナウイルス感染症対策	500,000	感染対策研修他

・特別保育事業は、乳児保育・特別支援保育・延長保育・休日保育事業を行いました。各事業については以下の通りです。

- ①乳児保育は、1年を通して12名の乳児を受け入れました。
- ②特別支援保育は、対象児が2歳児2名、3歳児1名、4歳児1名、5歳児2名の計6名でした。2歳児クラス、3・4歳児クラス、5歳児クラスに各1名担当職員を配置し、クラス担任と連携しながら保育に取り組みました。
- ③延長保育利用人数は平均14名。日によって人数のバラつきが多くなっています。コロナウイルス感染拡大に伴う時短勤務などの影響のため昨年度(19名)よりも減少しています。
- ④休日保育利用人数は平均6.7名。70日間の延利用人数は470名(1～3月は前年度平均を計上)でした。コロナウイルス感染拡大に伴う影響が大きく、感染状況などにより直前のキャンセルも多く、昨年度実績(698名)よりもさらに減少しました。今年度より法人内保育園の職員が交代で保育を担当して事業を実施しました。引き続き主任が責任者となって、各園担当者やパート職員と連携し、保育内容の充実にも取り組むことが出来ました。

#### (6) 設備・環境

・保育活動に必要な教材や環境を整え、児童の安全と健康を守るために必要な設備や環境の整備を行いました。

・2021年度の主な施設・設備の整備状況は以下の通りです。

幼児組保育室防炎カーテン交換(ホール・お話の部屋)

増築棟空調交換工事：担当業者：(株)晴天

給食室給湯器交換工事：担当業者：佐藤工業

- ・その他 夏季エアコン使用時の事務室前天井からの漏水(共栄建設対応中)、未満児園庭の一部陥没(埋め戻し対応済・地中雨水等の影響か)などもあり随時対応

## 2. 保育内容

### (1) 保育内容

- ・各クラスで担任保育士を中心に、子どもの発達を十分に理解し、年齢毎の遊びや課題別の活動を充実させ、生活や遊びを通じて一人ひとりの成長発達と関係性の育ちを促し、子どもたちが喜びや達成感を得られるように保育を行いました。
- ・特別支援保育の対象は2歳児から5歳児まで計6名でした。発達への援助とともに、クラスの仲間と育ちあう関係づくりを大切に取り組みました。また、各年齢で気になる子へ働きかけと、各機関と連携しての保護者への丁寧なアプローチの実践がみられました。

### (2) 行事

- ・コロナ禍での行事では、昨年度の経験をもとにさらに各行事のねらいを確認しながら、子どもにとって必要なこと・楽しいことを選び取り、保護者への理解と協力を求めながら、職員の明るい雰囲気を中心に前向きに取り組みました。
- ・運動会は、保護者からの提案により地域のコミュニティセンターを借用して実施しました。クラス毎入れ替え制で参加人数は制限しましたが、広々とした会場が好評でした。

### (3) 給食

- ・栄養士1名調理員4名の給食職員と連携しながら、アレルギー対応(5名)を行い、年齢発達に応じた美味しい給食の提供、食べる喜びを育てる食育活動に取り組みました。
- ・昨年度の反省を生かし基本的な手順の徹底を確認し、アレルギー対応での誤配・誤食はありませんでした。
- ・給食職員会議を定期的に行いました。業務の確認や見直しだけでなく、絵本を題材にしたメニューや給食職員のおすすめメニューなどを子どもたちや保護者にもアピールして取り組みました。給食職員が現場の保育者や子どもたちの反応を感じ、手ごたえをもって業務にあたることを確認しました。

### (4) 健康・安全

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、手洗い・水分補給・常時換気などの感染症予防の取り組みを継続して行いました。2月頃より幼児への感染拡大が顕著になったため、3・4・5歳児クラスでのマスクの着用やクラス別保育の実施など期間を限定して対策を強化しました。家庭内感染などで複数の陽性者が見られましたが、幸い施設内での感染拡大はありませんでした。その他の感染症では、胃腸炎の流行が0・1歳児を中心に見られ保健所に報告し、対応についても確認しました。
- ・子ども達が健康で安全に過ごせるように、日々の健康状態を観察し、快適に生活できるようにしました。健康管理として年2回の健康診断と年1回の歯科検診を行いました。
- ・受診が必要なケガは8件でした。肘内障や転倒時の口唇部裂傷・打撲などで、比較的軽微

なものでした。事故発生時の振り返り・対策が定着してきています。重大事故やけがの減少により、緊急時の対応経験も少なくなりました。今後は職員の危険予知能力や緊急対応力の向上研修が必要になっています。

- ・散歩中の安全確保のため、散歩コースの点検と注意事項の確認を行いました。
- ・月1回の地震や火災に備える避難訓練に加え、不審者対応訓練、散歩中の地震訓練や災害時の夜間保育や避難所設営の訓練も行いました。

### 3. 保護者支援と連携

#### (1) 保護者の状況

- ・102世帯中、非課税世帯8、一人親家庭10世帯です。一時期よりは困難家庭は減少していますが、困難が見えにくくなっています。複雑な家庭環境や、精神疾患を抱えた保護者、コロナ禍による経済的な困難など様々な状況がありました。担任保育者などを中心に見守りと声かけを行いました。保健師や学校、地域の子ども食堂などと連携し支援の輪を広げることができ、保育園の役割の重要性を感じました。
- ・苦情は4件でした。1歳児のかみつき等への対応、怪我の処置、職員の電話対応、子どもへの対応についての意見でした。不十分であった点について謝罪し対応を改善しました。

#### (2) 保護者との連携

- ・今年度は、コロナ禍により行事や懇談会などが少なくなったため、限られた機会に意識的に保護者に保育を伝えるように伝える工夫をしてきました。日常的な職員の明るく・生き生きとした態度や丁寧な対応、写真の掲示やお便りの発行を職員全体で意識的に取り組みました。
- ・保護者会活動は、役員会に園長が参加し園の状況等を報告しました。行事の縮小などで、活動はほとんどできませんでしたが、役員や保護者を中心に運営の見直しを行い無理なく継続できる保護者会活動を検討しています。行事の際の子どもたちへのプレゼントや紙芝居などを購入いただきました。

#### (3) 保護者アンケート

- ・行事後アンケートと、年度末の保護者アンケートを行いました。
- ・年度末の保護者アンケートについては昨年同様、①保育理念・方針・ねらいに沿った保育活動が行われていると感じているか ②保育のねらい等や子どもたちの姿が伝わっているか ③保護者が、子どもたちの様子や園の雰囲気・職員の態度から安心できているのかというポイントで、保育理念・方針に沿った保育活動が行われたかどうかを、自己評価する指標として実施しました。
- ・アンケート結果は、60%の回収率で、おおむね肯定的で、自由記述欄も励ましの記述がほとんどで、かなりの高評価となりました。職員の頑張りが伝わっている成果だと思われます。コロナ禍の影響もあり写真販売や動画公開などの要望が多くありました。またセキュリティへの不安も複数寄せられました。今後の課題としていきます

#### 4. 職員の研修と評価

- ・全職研修等では、全職員で年間を通じて1冊の文献『子どものかわいさに出会う』近藤直子著を学習することに取り組みました。子ども観・発達観を共有し、互いの実践から学び合う機会になりました。
- ・クラス会議等では、発達や活動について学び、クラスの課題を明らかにし、ねらいと方針をもって実践できるようにしました。
- ・年2回の総括会議では、前期はクラス保育だけでなく特別支援保育対象児について重点的に学びあいました。後期は感染拡大の時期と重なったため、レポート提出と中堅職員での討議と報告を行いました。いつもとは違う形でしたが、若手職員は自分の言葉でレポートすること、中堅職員は仲間の実践を評価することに取り組むことが出来ました。
- ・WEB研修を活用し、どの職員も参加できるよう計画し、一人ひとりが意識的に研修に取り組みました。
- ・季刊保問研、民医連雑誌などへの論文寄稿が2本など職員の実践研究の成果が見られました。
- ・パート職員と管理部との月1回の会議を実施し、全体職員会議の報告や研修を行いました。職員面談を随時行い、共通理解を深め、連携して保育を行えるようにしました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ・全年齢を通しての系統的な保育実践や保護者との面談、関係機関との連携により、子ども自身や保護者が、就学への期待と見通しを持てるように取り組みました。
- ・2021年度卒園児22名が就学する小学校8校へ、幼・保・小連絡会資料や「保育所児童保育要録」の送付などを通して、子どもの育ちの連続性がつくれるよう連携しました。
- ・必要に応じて、児童クラブ利用予定について児童館との引き継ぎを行いました。
- ・「あそぼう会」は感染拡大の影響で実施できませんでした。宮城野児童館の幼児クラブに参加し、育児相談などの役割を果たしました。園見学は参加人数を限定し年9回実施しました。ホームページのリニューアルを行い情報発信に努めました。HPや見学等による印象が入所申込につながるケースも多く、園の方針や特色を理解したうえでの入園者を増やす意味で重要な取り組みであることが分かりました。

#### 6. 2021年度の総括

- ・昨年度に引き続きコロナウイルス感染拡大の影響を受けた1年となりました。「昨年度同様」ということで、ねらいなどがあいまいになってしまうこともあったことが反省です。感染対策や、日常保育、行事の取り組み、いずれについても、ねらいや根拠を明確にして職員みんなで共有して行うことと、保護者にも発信していくことが大事であると実感しました。

- ・今年度は、新主任、副主任を迎えた管理部体制となりました。複数の中堅職員が産育休に入り、1・2年目職員が8名という体制の中で、特に3～7年目の職員の奮闘が見られました。それを支える管理部やリーダー職員も、経験や立場に応じた役割分担と、集団的な討議による運営を意識して取り組むことができたと思います。引き続き全世代での成長を目指した職員育成に取り組んでいきます。
- ・保護者との連携については、今年度限られた条件の中でも保護者に保育を伝える工夫をたくさんしてきました。やってきたことに自信と確信をもちながら、さらに“伝えたいことが伝わる”を目指します。今年度も、保護者同士の交流の場が少なく“保護者同士のつながりをつくる”ということに難しさがありました。保護者が仲間をつくり、子育てを楽しむために保育園がどのような役割を果たせるのか考え実践していきます。
- ・職場環境の向上や職員集団づくりについては、互いに尊重し合う関係づくりや十分なコミュニケーションを意識してきました。コロナ禍での緊張や不安の中での勤務が続き、精神的肉体的に負担があったと思います。自宅待機や体調不良時の急なお休みへの対応でも、職員の協力によりお互いに安心して休暇を取得することができました。また、土曜保育利用児減などで、事務時間の確保のしやすさがありました。今後も職員一人ひとりが主体的に職場づくりに取り組むことを大事にしていきます。
- ・社会保障運動の取り組みについては、今年度はオンラインを活用し様々な学習会への参加を積極的に行いました。学んだことを自分の言葉で発信し、自ら行動することにつなげていく意識を持ち、人権 café や全職などでのグループワークに取り組みました。今後も引き続き「楽しく」「具体的に行動すること」を大事に取り組んでいきます。

## 柳生もりの子保育園

### 1、事業規模

#### (1) 入所児童

今年度は以下の入所数が在籍しました。10月半月のみ2歳児1名入園し120名になりましたが11月に1名退園したため、その後の入園希望がなく120名の定員を維持することはできませんでした。標準認定児童は平均115名。短時間認定児童は平均3名。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
1歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
2歳	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
3歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
4歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
5歳	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
合計	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	119	1428

#### (2) 職員体制

今年度は主任1名、副主任保育士2名、保育士、管理栄養士、職員体制を整えて運営しました。クラス配置は、正規保育士と臨時保育士を組み合わせた8クラスを編成しました。その指導体制については、保育業務全体の指導を主任が統括し、副主任2名と専門リーダーと協力しながら管理部全体で指導を行いました。保育士1名が10月から3月まで傷病休業、調理員の6月の傷病休業、2022年3月から産休に1名が入りましたが、9月に復帰した保育士とパート保育士を調整して保育体制を整えました。

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	18	1			1		20
臨時職員	4						4
パート7h			1				1
パート6h						1	1
パート5h			1				1
パート4h	6		2	1			9
パート3h	1					2	3
合計	29	1	4	1	1	3	39

産休育休：2021年4月～2022年3月1名。産休：2022年3月～1名。 3月1日在籍

### (3) 保育事業内容

- \* 基本的運営は入所児童数の平均 119 名が在籍し、その委託費と各種補助金を申請し、実績に基づき給付された支給額で運営を行いました。入園募集を行いました但し充足せず、定員割れとなりました。
- \* 特別保育事業は年間通して乳児 12 名が在籍し、特別支援児童保育は、幼児組に 6 名が在籍し年間通して方針を持ち保育を行いました。
- \* 延長保育事業は標準時間の申請は、標準認定で 24 世帯が申請し、運営を行いました。利用者の平均は 8 名と少なく、担当保育士 2 名で運営を行いました。今年度も延長保育を利用数が少なく 10 人未満の利用となり、延長保育事業申請も 10 人未満の補助金額で申請し運営を行いました。
- \* 保育料の滞納についてはありませんでした。3 歳以上児の副食費の引き落としについて滞る世帯が 1 件あり、要保護支援世帯として見守りが必要で、経済的に大変さが伺える状況がありました。
- \* 今年度、3 歳未満児施設との連携に関する協定に基づく園児の入園はありませんが、協定を結んだことによる規程の助成額収入が年間通して入りました。

### (4) 職員の業務分担と役割

- \* 職員の業務分担と配置を検討してクラス運営を行いました。職員間で相互に連携を図りつつクラスを運営することを心掛けました。また、日々職員同士日々のコミュニケーションを図るよう心がけ、クラスの様子や担任の思いを管理部内でも共有するよう努めました。
- \* 運営費の運用の仕方について職員へ掲示で知らせて進めてきました。しかし、日々の保育業務に追われて予算に基づいて執行することが滞ることもあり、時期をみて適切に運用することや予算計画を確かめながら運用する意識を会計事務員の助けを借りながら行うことが必要と反省しました。
- \* 怪我や病気や衛生管理について看護師や保育士と相談しながら対応を行いました。怪我や子ども同士のトラブル時の傷について、保護者への丁寧な対応を心掛けました。医療保険給付や賠償給付手続きも行いました。

### (5) 設備・環境・保育材料

- \* 今年度の修繕やメンテナンスは、テラスの塗り直し工事、未満児クラスのエアコン清掃、ガスエアコンの部品交換、床のワックスがけ等を業者に依頼し行いました。大型遊具の整備は来年度検討します。その他の日々の細かな整備は用務が行うことで少額な経費を抑えています。
- \* 保育材料についてほぼ計画通りに購入しました。稟議書の提出と購入など、計画書の点検と購入状況を事務が定期的に行いましたが、見落としもあり業務の管理意識が足りなかったと反省しました。
- \* 2020 年 7 月に NPO 法人きらきら発電・市民共同発電が行う自然に優しいエネルギー太



陽光設置事業から宮城厚生福祉会へ発電機の譲渡を受け、柳生もりの子保育園 1 年間で 34,578 k w h の発電量がありました。

## 2. 保育内容

### \*保護者の状況

保護者の状況は、母子家庭が 10 世帯、非課税世帯 13 世帯あります。生活保護世帯はありませんが、雇用形態で非正規職の世帯もあり、このコロナ禍での生活保障など厳しい状況も想定されます。0・1 歳児の待機児童は夏以降育休明けで入園を希望する家庭が増える傾向があります。しかし 2 歳児以降の希望はない状況です。1 年を振り返り 120 名定員を維持するためには、未満児クラスの定員の確保と 3 歳児クラスでの利用を見込み、今後の少子化のなかで検討していくことが必要であると振り返りました。保護者の利用状況でここ数年気になることは、今年も 2 つの園に兄弟で通園している家庭が 5 組ありました。仙台市は待機児童はいる状況ですが、別々の保育園に入園すると同じ園への転園は難しく、送迎に大変な思いをしつつも入園できることで諦めてしまう状況もあるようです。

### \*保護者アンケートから読み解く

保護者アンケートを集計し 96 家庭中 65 家庭から回答がありました。おおむね、保育園の方針に賛同や温かい言葉を頂きました。しかし、保護者のなかには、保育園への要望や子どもの様子を知りたくて正直な思いや意見を出した保護者もあり、保護者との関わりや日々のコミュニケーションを心掛けるきっかけにしたいと思います。未満児クラスの保護者は、コロナ禍の 2 年間で行事の中止が続き、保護者参加の思いが出されていることがアンケートで分かりました。そういう思いにも耳を傾けられるようにしていきたいと思いました。今年度の取り組みとして、コロナ禍での保育の様子を伝える工夫しようと各クラスで保育の様子を写真に撮って掲示して伝えました。

### \*安全管理

通院する事故は年間 19 件ありました。歯や口、目の負傷で歯科や眼科に受診しました。活動中に肘内障を繰り返す園児が在籍し、活動に気を配って保育を行いました。また、怪我が起こりやすい場所を、職員間で検証し、怪我を防ぐ意識を持つよう会議で振り返り職員同士声を掛けあうようにしました。

### \*保健活動

- ・新型コロナウイルス感染症予防対策について情報を集め検討しながら衛生管理を行って保育を行いました。今年度も保護者の方に協力を頂き、お子さんの登園時の手洗いと検温や健康観察をしてから入室をお願いしました。1 月からは 3・4・5 歳児の室内でのマスク着用は保護者の判断のもと協力を呼びかけました。ほとんどの家庭で着用に協力頂きましたが、子どもの着用について意見もありました。保護者の方の入室時のアルコール消毒の実施と、保護者が体調不良時の園内の入室自粛や情報提供もお願いしました。また、保育園内の共有場所やおもちゃの消毒、常時換気、職員の感染予防への対策等を保護者へ

お知らせを配布、感染対策への理解と協力を数回にわたりお知らせしました。昨年に続き、今年度もインフルエンザの流行などの大きな流行はありませんでした。

- ・保護者向けに園のコロナ感染予防対策をその都度お知らせしていますが、感染予防に関しては保護者それぞれの感覚の違いが一部にあることも感じます。感染予防のための保育園への情報提供について認識の違いもあり、2月に子どもの陽性から濃厚接触者が複数クラスで認定され、保健所や仙台市と協議し2月に4日間休園となりました。12月以降は家族内感染から保護者の保育園の出入りや合同保育の範囲の判断など、感染拡大防止を慎重に判断することの大事さを感じました。今後も保護者に、感染予防対策への協力していただけるよう分かりやすく伝える努力していきたいと思えます
- ・保健業務は看護師が年間通して投薬管理、怪我や体調不良の対応を行いました。保健計画通りの日程ではできませんでしたが、手洗いや歯磨き指導を幼児組で行いました。ほけん便りも年 6号発行し病気予防などをお知らせしました。
- ・与薬数（内服薬、塗り薬、点眼薬）

クラス	つぼみ	つくし	どんぐり	こりす	みつばち	おひさま	かわ	やま
与薬数	203	135	245	106	534	30	128	226

年間合計数は1,607で昨年度の与薬数は1,671とほぼ変わらない数でした

- ・コロナ禍2年目の今年度も国や仙台市の通達を法人や管理部で検討し、制限があるなかでも何を大切に子ども達の遊びを補償していくべきか、職員と検討しながら活動を作ってきました。例年行う親子クッキングや保育参観は計画せず、懇談会は10人前後の少人数で計画して行いました。懇談会はコロナ禍の中でも保護者に保育の様子を知って頂くためにと保護者同士が顔を合わせる大切な場としてなるべく実施したいと考えましたが、園内の新型コロナウイルスの感染状況や周辺地域の感染状況を注視しながら中止の判断も行いました。また、クラス別保育を基本にし、幼児組と未満児の保育の交流を最小限にして感染予防対策を行いました。

#### \*苦情について

年間通して2件ありました。園児を治療して頂いた医院から日本スポーツ振興センターの手続きについて正式な手続きをするよう話があり謝罪し改善しました。また、保護者より家庭での保育の協力について仙台市に苦情があり、仙台市から子育て支援の役割も保育園にはあること確認がありました。職員会議で共有しました。

#### \*保育園の自己評価

保育実践検討を年2回、職員間で検討し方針を立てて保育の振り返りを行う研修を行いました。コロナ禍のなかでも保育園内で楽しい活動に取り組みたいと若い保育士が企画しアイデアを出し合った動物園ごっこ（園内に動物や虫の展示、生き物クイズ、鳴き声のBGM）は全クラスが順番に回り楽しみました。この取り組みの中で、保育士自身も保育の取り組みに自発的にアイデアを出す姿に保育の楽しさを感じることができました。

0歳児：0歳児期にしっかりとした愛着関係を築くように一人一人の子どもの特徴をつか

み落ち着いてゆったり関わるよう努めました。生活のお世話も待つ、子どもが納得してから動く、見守る大人の姿勢やまなざしを送って生活を作っていました。保護者の要望を捉え子育てへの工夫や保育園と一緒に子育てしていく思いが共有できるように心がけました。

- 1・2歳児：生活を子どもが分かりやすくむかえられるよう年間通じて関わりを工夫してきました。子どもと保育士、子どもと子どもの関わりを遊びながら生活を丁寧に繰り返して友達と遊び合う楽しさを感じられるようにしました。
- 3歳児：1日の始まりを集まりで友達を知る、楽しい見通しを持つ、友達と楽しいことをするなど意識することを努力してきました。行事を通して普段からごっこ遊びを楽しむ中で友達との関わりを楽しんでいきました。
- 4歳児：捉えが難しい子どもが複数入るなかで、保育者は子どもの本心や本音を知ろうとする姿勢を意識して保育を試行錯誤しながら作ってきました。子どもの思いに目を向けて仲間と一緒に遊び、やりたい活動を通して育つ保育を心掛けて行いました。
- 5歳児：担任間で子どもの姿を捉え考え、行事一つ一つを通して仲間を感じて育ち合う方針を持って保育を行いました。

給食：安心・安全の食材で衛生管理に努めながら、美味しい給食づくりを行いました。

### 3、職員の研修と評価

\*職員会議での学習は文献を読んで感想交流をしました。研修は職員全員が参加できるよう計画し仙台市やその他外部でweb研修を行いました。キャリアパス研修は3年目からベテラン職員まで参加できるよう調整し、一人1~2講座を受講、12名の職員が資格取得できました。全体職員会議での学習は、感想を出し合うことも多くなりました。職員と実践を検討する機会が作れず、学習の提起や運営の工夫について反省が残りました。また、臨時保育士も学習する場である全体職員会議も、保育観を一致して行うためにも学習の感想に留めないような工夫が必要と反省しました。来期は、臨時・パート職員の会議の運営を検討します。パート保育士の会議を1回しか行うことができず、計画的に行うことが出来ませんでした

\*クラス会議・ケース会議・行事検討会議・保護者との個別面談等、職員各自が意識を持ち会議に臨めるために、管理部や中堅職員と相談してきましたが充分手立てを取れず来年の課題にしたいと思います。

### 4、小学校や地域との連携

- \*今年度も幼保小連絡会へ参加し引継ぎを行いました。また、2月は児童館の見学があり子どもの様子を見ていただき引継ぎを行いました。
- \*要保護児童の聞き取りがあり、区の保健師と家庭の状況について懇談を行いました。また、定期的に見守りの必要な複数の家庭について電話にて連絡を取り合いました。

## 5、今年度の重点事項

\*コロナ禍2年目となり、研修はweb研修を利用して計画的に行いました。職員同士で保育を自由に語りあう場や保育のヒントを得る機会が例年より少なく、職員それぞれの思いや保育を振り返り次につながるような機会を工夫が足りなかったと思います。また、場を和ませるようなレクレーションや汗を流して学びあう機会が少ない中で、どのように職員同士のつながりを築けるかの検討がもっと必要でした。

## 古川ももの木保育園

2021年度は定員90名に対して104名でスタートしました。0歳児12名の募集に対し9名の入所希望数で定員に空きがありましたが、昨年度のように1,2歳児への受け入れ変更は行わず、大崎市と相談しながら0歳児の入所を待つことにしました。5月7月と入所希望がありましたが、年度途中で退園する子も多く、年間を通して変動の多い園児数でした。

### 1.事業規模

#### (1) 入所児数

定員90名に対し4月は104名、8クラスで行いました

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
0歳	9	9	10	10	12	12	12	12	12	12	12	12	134
1歳	18	18	18	18	17	16	17	17	17	18	18	18	210
2歳	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
3歳	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228
4歳	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	217
5歳	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
合計	104	103	104	104	105	104	105	105	105	106	106	106	1257

#### (2) 職員体制

正規職員は、保育士15名、栄養士1名、事務員1名、園長1名、パート職員は保育士8名・事務員1名・看護師1名・調理員4名・用務1名の15計名、総数33名体制で行いました。他に嘱託医として内科医師・歯科医師各1名となりました。

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務 用務	合計
正規職員	15	1			1	1	18
臨時・契約職員							
パート 6.0H	1		2				3
パート 5.0H	1					2	3
パート 4.5H			1				1
パート 4.0H	4 (延長1)		1	1			6
パート 3.0H	1						1
パート 2.5H	1						1
合計	23	1	4	1	1	3	33

### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営費は、公定価格に基づいた委託費収入と大崎市補助金収入、保護者からの利用料収入（延長保育利用料・3歳以上児主・副食費代）でした。
- ② 特別保育事業は、延長保育・標準時間（1時間延長）短時間（2時間延長）を実施しました。地域活動事業（世代間交流・遊ぼう会等）は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施できませんでした。

### (4) 職員の業務分担と役割

- ① 園長は主任保育士と協力し、総括的指揮をとりました。  
主任保育士と副主任保育士は協力して、クラス会議等に参加し保育内容等保育全般を把握し、また職員間の関係及び保護者との関係が円滑にすすむよう努めました。日々の業務管理は主任保育士が行い、クラスリーダーは、クラス運営を実行するにあたり子どもたちの姿や発達を捉えながら保育運営を行いました。また、子どもたちの安心・安全な保育のために管理部や職員間で連携をとりながら日々奮闘してきました。
- ② 食育については、栄養士と協力し、コロナ禍の下安全に配慮しながら（消毒・マスク・個別に・換気・自分の分は自分で作る等）計画的に行い、食べる喜びや調理する達成感を感じることが出来ました。地産食材をいかした献立、伝統的な献立を取り入れ、安全・安心な給食に取り組みました。
- ③ 保健業務については、看護師は園長・主任と連携しながら園児の健康管理・保護者支援と体調不良児、アレルギー児の個別対応などを行いました。また、園内や玩具の消毒を毎日実施し感染防止に努めました。
- ④ 経理・総務事業を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないように努めることができました。
- ⑤ 保育室・園庭・遊具等の安全や環境整備を、用務職員と管理部が協力して維持管理や整備に努めました。不備があるところは計画的に直しました。（柵やトイレのネジ等）

### (5) 設備・環境・保育材料について

- ① 保育や行事に必要な設備の充実と教材・玩具・絵本や図鑑等の購入を計画的に進め発達に応じた使い方や設定、環境づくりに努めました。
- ② 19年目を迎えるにあたり、2歳児用椅子の入れかえや0歳児のテーブル付椅子の購入を計画的に進め、園内の安全対策と環境整備に努めました。
- ③ 園庭の安全点検を心がけました。また散歩コースは再度安全確認を行いさらに散歩先では遊ぶ前に職員が見回り、不審物がないか見回りをしたりごみを拾ったり、安全を確認した後遊びました。

## 2. 保育内容

### (1) 保育目標と主な行事

- ① 児童憲章及び児童福祉法の精神のもと、子どもの最善の利益を守り、子どもたちの心身

の健やかな育ちを保障するよう保育指針をもとに計画を立ててきました。各年齢にそった活動を通して、しっかりした自我をもち仲間とともに育ち合い、豊かな知的興味と感性を育てる保育を大切にしてきました。

## ② 行事予定

月	主な行事	月	主な行事
4月	入園式（少人数で）・内科健診	10月	運動会（体育館で幼児組のみ入れ替え制）・総合避難訓練・内科健診
5月	子どもの日祭り（少人数で）	11月	収穫祭（乳児・幼児分けて）
6月	総合避難訓練 歯科検診	12月	クリスマス会（幼児組）・クリスマス会ごっこ（乳児組）・餅つき会（1クラスずつ）
7月	夏まつり（園内で職員と子どもで実施）	1月	・歯科検診 ・父母懇談会
8月	保育参加（中止）	2月	節分豆まき会（各クラス）・父母懇談会
9月	5歳児お泊り会（泊まらない） 秋の散歩と青空給食（3・4歳児）	3月	ひな祭り会・卒園式（卒園児と保護者）・修了・進級式（各クラス分かれて）

月例行事：誕生会（乳児幼児分かれて）・地域交流活動「あそぼう会」は中止・避難訓練（各クラス又は乳児幼児ごとに）

行事は新型コロナウイルス感染拡大に伴い規模を縮小したり中止にしたりしました。年度末の卒園式は昨年同様新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため規模を縮小して行いましたが、温かな雰囲気のもと卒園式を行うことができました。

## （2）保育方針

① 一人ひとりが健康で安全安心に過ごせるように、日々の健康状態を観察し年齢に応じた適切な養護と衛生管理に努めました。健康管理として、内科健診と歯科検診は通常通り年2回行いました。感染症対策として、日々の手洗い・うがい・保育室の換気・加湿（冬期）・消毒を行うなど年間を通し衛生管理に取り組んできました。保育室の換気は時間を決めて行い、看護師が見回りながら、換気していないクラスがないように努めました。

② 子どもの思いや気持ちを丁寧にくみ取ることで、子ども一人ひとりが安心して自分を表現し、子ども自身が主体となる生活づくりを大事にしてきました。

③ 職員一人ひとりが子どもの発達を十分理解し、職員同士見通しを持って保育にあたりました。また、子どもの姿を捉えながら各年齢ごとの活動や遊びを充実させました。

④ 父母懇談会は保護者同士がつながれるように、内容や時間配分を検討し、換気や保護者間の距離をとるなど、感染対策を徹底しながら行いました。どの保護者も子どもの様子をうれしそうに見たり、保護者同士の話に微笑んだりとても楽しそうに参加していました。コロナ禍の育児講座、保育参加は中止にしました。

親子参加行事は、幼児組を中心に入れ替え制で行い、乳児組は園内で子どもと職員で

取り組みました。その様子は写真やクラスや園だより等でお知らせし保護者の方にも取り組みの様子が伝わるような工夫をしました。

⑤ 栽培活動については、土づくりから職員みんなで協力し、1年間見通しを持ちながら保育士が中心となり、栄養士と協力して栽培活動を進めてきました。

クッキングはコロナ感染予防対策を計画的に行いながら実施しました。自分たちで育てた野菜を使い、自分の分を作って食べるというところを徹底しながら行いました。自分の分を作りながらも、収穫した野菜を見て喜び合ったり、となりの友だちと作ったものを見せ合ったり、とてもうれしそうに作っていました。

### **(3) 安全管理**

① 4月の早い段階でマニュアルの確認を行い安全管理について全職員の理解に努めました。

② 災害対策として、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、水害時の訓練、消防署の協力の元、年2回の総合避難訓練を、計画通りに行いました。

③不審者対策・安全対策のため、散歩計画書を提出し携帯電話を持ち事務室に人数を報告してから散歩に行く等安全に配慮をしました。

## **3.保護者との連携・支援**

① コロナ禍の社会のもと、厳しくなっている保護者の状況を踏まえ、職員間の日々の伝え合いを大切にしながら、保護者の置かれている状況の共通理解に努めてきました。

② 父母懇談会では、保育園での子どもの姿や、父母の悩みを振り返り保護者の思いに寄り添うことで、子育てに前向きになったり、他の保護者と同じ思いを共有することで安心したりする姿がみられました。また例年実施している4,5歳児の親子クッキングは、今年度は中止し自分たちで作った味噌を、少しずつ持ち帰り家庭で味わってもらうことにしました。

③ 今の時代だからこそ保護者の背景を踏まえつつ、保護者に対し、わかりやすく子育ての知識を伝えられるようみんなで話し合いました。

④ 育児講座は中止にしました。

⑤ 保護者支援が必要な家庭があり子育て支援課の相談員や保健師と連携をとり情報を共有しながら対応にあたってきました。

## **4. 職員の研修と評価**

① 法人理念に基づいた保育や、子どもの人権を大切にする保育とはどういう事かを、職員全体で学びました。各部会で場面記録検討を位置づけ、職員一人ひとりが丁寧に子どもの内面を捉えながら保育をしてきました。

② クラス会議などで年齢ごとの発達の特徴を学び、子どもの理解を確かなものにしてきました。また、全体的な学習は年間の研修計画を立て、学習係りを中心としながら計画的に行ってきました。



- ③ WEBによるキャリアパス研修に参加しました。他にも、WEB研修を重視した研修に参加し、資質向上に努めました。
- ④ 自己評価シートを活用し、職員一人ひとりが自分の保育を振り返り、資質向上に努めていけるように職員面談を行いました。また、職場会議の中で「担任間で子どもに寄り添っていいなと思う場面」について語りあい、和やかな雰囲気の中、お互いを認め合える場になったのではないかと思います。
- ⑤ 園全体の仕事の理解と職員集団の中での不安や悩みを解消して安心して働けるようにOJTの研修を行いました。
- ⑥ 保育制度、社会保障などの情勢について積極的に学び、社保委員を中心に学習を位置づけ運動しましたが、計画的に行うことはできませんでした。

## 5. 小学校や地域との連携

- ① 園・地域の行事や、5歳児の老人施設との交流など、今年度はコロナウイルス感染拡大に伴い中止しました。
- ② 保・幼・小連絡会や要録の伝え合いに参加し、より良い小学校生活が始まるように連携をとりました。また、気になる子、保護者が気にしている子については、保護者と連携をとりながら事前に小学校と連携をとって、学校見学を行うなどの配慮を行いました。
- ③ 地域の交流の場として月1回行っていた遊ぼう会や夏祭りは、コロナ感染拡大に伴い中止しました。また、年初めに行う予定だったほうねん座公演は残念ながら中止しました。
- ④ 保育実習生は例年通り受け入れました。また、中高生の職場体験・ボランティアの受け入れなど先方からの依頼はありませんでした。

## 6. 今年度の重点事項

- ① 「子どもに寄り添う保育とは」を今年度のテーマとして学習係りを中心としながら取り組んできました。毎月、各クラスの子どもに寄り添う保育の場面を出し、グループワークを行う中でその子の内面の思いを探りながら、担任の関わり方のいいところ、ここはこんな寄り添い方もあったのかもなど話し合いました。自分の保育場面を思い浮かべながら話をする職員もおり、自分の保育を振り返るいい学習になりました。また、法人全体研修の中で、子どもに寄り添うということをさらに深く学ぶことができました。
- ② 「場面記録」を今年度も活用し各部会で検討し、職員一人ひとりが発言できるようにしました。また、内容を深められるように中堅職員が中心となり討議を進め、職場会の中で職員全員に共有しました。
- ③ どの職員も自分の意見をもち、言い合えるような職員同士の関係性や雰囲気作りを、中堅職員と共に職員一人ひとりが取り組み、生き生きと働き続けられるような職場作りを目指しました。

## 7. 保健活動から

コロナウイルス収束の見通しがつかず、今年度も保護者の協力を得ながら感染予防を行ってきました。

感染症の流行は少なかったものの、全国的に大流行したRSウイルスは、園でも乳児クラスを中心に流行しました。

個別での対応が必要な食物アレルギーのある子は、症状が出る事無く過ごすことができました。また、てんかんの発作で対応が必要な子には、保護者と連携をとり、必要な対応を検討し実施していくことができました。今後も症状に合わせて対応を続けていきます。

年2回の内科健診、歯科検診は予定通り行うことができました。また、3歳児を対象に、歯磨き指導の人形を使用し継続して指導することで、歯磨きの習慣に繋げる事ができました。今後もコロナウイルスの動向に注意し、職員だけでなく保護者の協力を得て感染予防に努めていきます。

2021年度 投薬依頼数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
依頼数	172	130	190	177	147	110	119	145	155	92	92	111

2021年度アクシデント件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
件数	7	12	10	4	8	2	8	10	10	5	1	7

## 8. 給食室より

### 《配慮食》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0	0	5	2	0	0	2	2	4	0	3	14	32

給食そのものの配慮ではなく、牛乳をお茶に変更という配慮がほとんどでした。(食欲もあり元気だが、普段より便が柔らかいなどの理由) また、3月は牛乳のアレルギー疑いの子が検査を行い、結果が出るまでの期間、配慮対応をしたため多くなっています。

### 《アレルギー除去食》

年齢	アレルギー除去食内容
0歳児(1名)	卵全般
1歳児(2名)	卵全般、卵そのもの・メイン料理、大豆、ゴマ、魚全般
2歳児(2名)	卵全般、卵そのもの、ピーナッツ

4歳児(1名)	卵全般、乳全般
5歳児(1名)	魚そのもの、そば

《主な食育活動》

4月	菜園活動計画 畑作り	10月	魚の解体ショー、 バイキング給食、青空給食
5月	菜園活動	11月	収穫祭、みそ作り
6月	箸指導、食事マナー	12月	もちつき会、バイキング給食
7月	野菜収穫、クッキング	1月	食具マナー指導
8月	食具指導	2月	セレクトパン、クッキング、食具マ ナー指導
9月	お泊まりクッキング	3月	4歳児みそクッキング、バイキング 給食、お別れクッキング

今年度も感染対策のため異年齢交流等は実施せずクラスごとでクッキングやバイキング、おにぎりづくりなどを行いました。

幼児クラスの菜園活動では、保育士が畑の整備を行い5歳児クラスが土を混ぜる作業を行いました。その後JA古川さんからタネや苗の提供をいただき、実施しました。

クッキングはコロナ感染予防対策を計画的に行いながら実施しました。自分たちで育てた野菜を使い、自分の分を作って食べるというところを徹底しながら行いました。また、調理従事者が大きな鮭を子どもたちの目の前でさばく“魚の解体ショー”を実施し、その後、調理従事者が4.5歳児クラスの子どもの前でさばいた魚を使い「ちゃんちゃん焼き」を作って食べました。11月は収穫したさつま芋で焼き芋会・収穫祭を行い、12月にはもちつき会、3月には4、5歳児クッキングを行いました。4歳児は収穫した大根で給食のフルコースを作って食べ、自分たちで豆から育てた大豆で味噌作りを行いその味噌でクッキングを行いました。(手指の消毒、マスク、ジップロックの使用)今年度は昨年度の反省やできる範囲の見通しが持てた為できる範囲を広げ計画的に実施できました。

離乳食は咀嚼、吸い食べ、丸飲み込み、手づかみ食べといった課題があり、家庭での食べる様子や食材の形態などを詳しく聞き取りをした上で進めるようにしました。保護者自身も離乳食の進め方で悩んでいる様子が見られたので保育園に来園してもらい一緒に食べさせながら、他園児や職員の様子を見て離乳食の進め方などを知ってもらいました。コロナ禍で他と接する機会が少なく情報が手軽に調べられるネットなどに頼っているところも見受けられましたので、対面で話をすることの重要性を改めて感じました。

今年度も「より安心・安全な食事提供」を常日頃から心がけ地場産の食材をなるべく取り入れながら各業者へ食材の安全確認(放射能測定結果の取り寄せ・出荷産地確認・県、市ホームページの確認など)を定期的に行い安全な食材を納入してもらえらるようにはしました。継続し定期的に食材の安全確認を行い安心安全な給食を提供していきたいと思ひます。また、感

染症が出た時の対応などを園全体で考え進めていきたいと思ひます。

《その他の活動として》

\*父母への働きかけとして：離乳食紹介(入園式にて)・簡単朝食レシピ配布・ホームページにて給食紹介、レシピの掲載など。

## 9、補助金による事業

### ①延長保育事業

延長保育登録数は在園児の4割弱が登録しました。7時間際のお迎えや、過ぎてのお迎えの家庭もあり、仕事の厳しさが伺えます。遅番職員は少ない体制の中行ひますが、遊びの設定や掃除等、連携をとりながら行うことができました。また、コロナウイルス感染拡大のため、合同保育ではなくクラス別保育を行う時もありました。

<2021年度の利用状況>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
6:01時点の平均数	20	20	21	19	17	20	19	22	23	25	22	22
6:31時点の平均数	14	13	13	12	11	11	11	12	12	13	17	16
4:01時点の平均数	4	4	5	5	5	6	6	6	6	6	7	7

### ②地域交流事業

毎年地域交流事業として「夏祭り」を行い地域の方もお誘ひして在園児と共に楽しいひと時を過ごしてはいたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴ひ園内だけで行ひました。また、世代間事業として「お店屋さんごっこ」を毎年1月に行っていたのですが、密を回避できないのと、お年寄りをお招きしての行事はリスクが高いので中止しました。定期的に実施していた遊ぼう会も、今年度は中止しました。

## 下馬みどり保育園事業報告

2021年度、下馬みどり保育園の保育園経営を以下のように取り組みました。

### 1 事業規模

#### (1) 入所児童数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0歳	5	5	6	7	7	8	9	9	9	9	9	9
1歳	11	11	12	12	12	12	11	12	12	12	12	12
2歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
3歳	10	10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9
4歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
5歳	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
合計	64	64	66	66	66	67	67	68	68	68	68	68

- ・0歳児6名でスタート予定が1名転園が決まり4、5月5名となりました。7月から9名入園を目指していたが、上記のような推移となり10月に9名となりました。
- ・3歳児10名でスタートしたが、急な転勤で1名6月末退園となり9名の在籍となりました。募集はしていましたが、待機児がおらず予算未達となりました。
- ・0歳児がなかなか埋まらないことと3歳児も待機児がないということで、1歳児を1名増やしました。しかし、途中退園があり出入りが多くなりました。

#### (2) 職員体制

	園長	副園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務	保育補助 用務員	合計
正規職員	1	1	12	1					15
パート6H			1		1	1	1		4
パート5H								1	1
パート4H			1						1
パート3H			1					1	2
不定期					1				1
派遣			1						1
合計	1	1	16	1	2	1	1	2	22

\*嘱託医として坂総合病院小児科と、こう歯科医院に委託しました。

\*1名育児休業中

\*園長補佐として副園長を配置しました。園長業務を分担し、病後児保育、くさの実保育園の業務等を担いました。

### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営は公定価格に基づいた給付金と多賀城市補助金・利用料収入によります。利用料は延長保育料金、病後児保育料金、入所児童処遇特別加算、障がい児保育事業、給食費となります。給食費については、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休園となった期間と濃厚接触者に特定された期間の減免を行いました。
- ② 特別保育事業として病後児保育（多賀城市内1歳から小学校3年生までが対象）は年間のべ60名の利用目標を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、年間利用人数は5名となりました。補助金は4,582,000円の実績となりました。
- ③ 特別保育事業の延長保育事業は月平均18時31分以降6名以上の利用人数となり補助金は1,544,000円の実績となりました。
- ④ 特別保育事業の障害児保育事業は、対象児2名で2,328,000円の実績となりました。
- ⑤ 4,5月0歳児の入園が5名だったので、乳児保育促進事業補助金が対象になり、130,000円の実績となりました。

### (4) 設備・環境

- ① 発達に応じた遊具や玩具、備品の購入等行いました。また、子どもがおもちゃを自由に手に取れるような保育室の環境構成の見直しを行いました。
- ② 園児の安全対策を見直し対応しました。
- ③ 定期的に園庭の砂を補充しました。また、園庭での遊びを充実させるために職員で学習をすすめ遊具等の検討を行いました。

## 2. 保育内容

### (1) 保育目標と主な行事

- ① 法人保育理念を実践すべく、子どもの人権を尊重する保育について学び合い、心身の健やかな育ちを保障するように取り組みました。
- ② 安心できる保育者との信頼関係を土台に、基本的な生活、豊かな遊びと人とのかかわりを通して、自我を育て仲間と共に育ちあう保育ができるように取り組みました。

#### 年間行事予定

	主な行事		主な行事
4月	入園式	10月	運動会・内科検診・歯科検診
5月		11月	焼き芋会 ほうねん座鑑賞
6月	クラス懇談会	12月	クリスマス会 ・餅つき
7月	なつまつり	1月	クラス懇談会
8月	お泊り保育（年長）	2月	豆まき ・交通安全教室
9月	交通安全教室	3月	ひな祭り会・卒園式

## (2) 保育方針

- ① 一人ひとりが健康で安全に過ごせるように、日々の健康状態を把握し、必要な配慮ができるようにしました。新型コロナウイルス感染予防については、保護者への協力の周知や、なるべく合同保育の時間を短くしクラスごとの保育を行いました。園内の消毒等を行い、感染症予防に努めました。
- ② 子どもの発達を理解できるように、クラス会議で学習に取り組みました。保育内容をクラス、その職員任せにせず、組織的、系統的に学ぶ取り組みを行いました。
- ③ 行事は、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で昨年度同様に職員とできることを確認しながら取り組みました。しかし、お泊り保育は感染予防に努めながら開催することができました。
- ④ 子どもの思いに寄り添いながら、どの子どもも安心して自分を表現でき、気持ちよく生活できるような援助を職員ができるように、子どもの話をお互いに出し合い実践してきました。
- ⑤ 0歳児は途中入園を受入れ10月には9名の在籍となりました。途中入園4名のうち3名は要保護児童であり、クラス担任だけでなく管理部、また他の職員とも連携して対応にあたりました。
- ⑥ 障がい児保育については、保護者と連携を行い、今年度から3歳児1名を障害児保育の対象児として個別支援を行いました。送迎できない保護者なので定期的に面談を行い、子どもの成長や子育ての悩みを共有してきました。また、発達に困難を抱え配慮が必要な子どもたちについても、職員の子ども理解を深めながら、方針を持って働きかけていけるように取り組みました。

## (3) 安全管理

- ① 安全管理マニュアルを4月の全職会議にて確認し、安全に対する意識を常に持てるようにしていきました。リスクマネジメント会議でヒヤリハット等確認し安全管理に取り組みました。
- ② 事故・けがについて、医療機関を受診する事故は5件でした。けがの内容は、目の打撲、肘内障、口腔内裂傷、歯の打撲でした。職員の危険を予期する力量とともに、子ども達へのけが防止への意識付けと身体づくりを意識した保育に取り組みました。今後も引き続き取り組んでいきます。
- ③ 新型コロナウイルス感染症については、園内での感染があり、対策していても防ぎ切れない状況がありました。引き続き、正確な知識を職員間で共有し、感染予防に取り組んでいきます。

## 3. 保護者支援と連携

- ① 保護者の生活実態や仕事の状況が理解できるように努め、保護者の子育ての思いに寄り添い一緒により良い子育てができるように支援していきました。子ども同

士のトラブルで、保護者に不安を持たれたこともありましたが、クラス担任の努力や管理部も一緒に関わりながら、時間をかけながらも信頼を再構築できました。

- ② 新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、懇談会を2回実施できました。保護者間の交流や子どもの成長を共に確認する場として、職員皆で取り組みました。
- ③ 保護者からの引継ぎや保育の引継ぎがスムーズになるように引継ぎ表の見直しを行いました。
- ④ 保護者アンケートの意味を管理部の中で明確にして、アンケート項目の見直しを行い、保育園の自己評価としての保護者アンケートに取り組みました。保育園に対して信頼を示している内容が多くありましたが、保育者の対応の不充分さを伝える意見もありました。保護者の意見を真摯に受け止め改善していけるよう、職員間で確認しました。
- ⑤ 「おが〜る」での登降園管理をスタートさせました。朝忙しい時に記入するものがなくて良いと概ね良い評価となっています。また、安否確認システムは行事、新型コロナウイルス感染や災害時に活用し、保護者も必ず確認してくれ運用が定着しました。

#### 4. 職員の研修と評価

- ① 園外研修は新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン開催が多く、保育プラザ等の研修に計画的に参加し基本的な発達を学べるようにしました。また、キャリアアップ研修もオンライン開催で計画的に受講することができました。
- ② 園内研修は、法人保育理念、平和、人権等について、計画に沿って取り組みました。職員会議やクラス会議での学習を位置付け、特にクラス会議では年齢別発達を学ぶことを中心に取り組みました。
- ③ 園内外の自主研修について、職員に周知し、先輩職員と若い職員と一緒に参加し学び合いました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ① 感染予防に努めながら、保育実習生を受け入れました。
- ② 地域の乳幼児を対象の「あそぼう会」は、新型コロナウイルス感染予防に努めながら実施しました。参加者は1組だけでした。
- ③ 多賀城市の幼保小連携事業に基づいて実施しました。研修は中止が多かったですが、小学校の教員が来園し年長児との交流を行いました。

#### 6. 重点目標のまとめ

- ① 研修や会議での学習や職員間で日常的に子ども姿を伝え合うことを通して、子ども理解や発達について学び、保育理念の実践に取り組めるようにしました。



- ② 職員一人ひとりが年齢発達に応じ系統的に取り組むことができるように、発達の学習に取り組みました。
- ③ マニュアルの研修と共に、事故報告やヒヤリハット事例による研修等を行い、子どもの安全に対する意識を高め、園全体でけがや事故のない保育ができるように取り組みました。
- ④ コロナウイルス感染症やその他の感染症に対して知識を共有し、感染対策に努めました。また、感染が発生した時は、職員との情報共有を図り、対応を一致させてきました。衛生管理については、マニュアルの確認、研修を行いました。全職員共通の認識とすることが難しく、今後も引き続き取り組みます。
- ⑤ 保護者との信頼関係を築くために、日常の保育の様子や保育園で大切にしていることを伝えることに努めました。子どものトラブルに対しては、担任と管理部が連携し、保育の見直しや保護者対応を行いました。苦情に対しても誠実に対応し、保護者が、安心して子どもを託すことができるようにしました。
- ⑥ 職員一人ひとりが、健康でいきいきと働き続けられるような職場環境をつくっていくために、互いに尊重し合い、十分なコミュニケーションが取れるように取り組みました。また、キャリアパスの研修等を通し経験や立場に応じた役割分担が意識できる取り組みや、会議のやり方を変えて集団的な討議による運営ができるように取り組みました。
- ⑦ 子どもを守る保育者として、社会情勢に目を向け、平和で誰もが安心して生活していくことができる社会をめざし、職場全体で学習を進めながら社会保障運動に取り組みました。特に園内社保は法人社保委員中心に若手職員が社保運動の理解を深め取り組むことができました。「多賀城市よい保育をすすめる会」は新型コロナウイルス感染症の影響で実施しませんでした。

## くさの実保育園

2021 年度くさの実保育園の運営を下記のように取り組みました。

子どもの健やかな成長と保護者の就労支援を重点目標とし、新たに入職した職員の子どもや育休明けの子どもたちを受け入れました。4～5月までは日中園児の在籍はない状況にあり、正規職員の1名は法人内の他園に研修に出かけました。6月より日中園児の利用が開始し途中1名の入退園がありましたが、3月には7名の在籍となりました。また、今年度はくさの実保育園の利用希望を提出していても、職場復帰時に地域の保育園の入所が可能になるなどし、院内保育所の利用が不要になった子どもも一定数おりました。また、坂病院からはコロナ禍による小学校や児童福祉施設が休園（休校）となった際の職員の子どもの一時的な受け入れが打診され「3歳以上児、お弁当持参で」など受け入れるための条件を検討してきました。3月16日の地震の翌日には周辺の学校、保育施設が休園（休校）となり、坂病院から子ども連れで出勤した病院職員のために保育士の派遣を要請され、常勤職の1名が病院に赴き保育を行いました。

夜間・休日保育を利用する子どもたちはほぼ固定しており、慣れている子どもたちと職員とで休日も夜間も不安なく過ごせるように対応してきました。今年度は両親ともに研修医の兄弟の保育を兄が在籍する幼稚園や弟が在籍する下馬みどり保育園と連携し、急な申し込みなどにも対応してきました。

また、年末は坂総合病院の開院に合わせ29日までを通常保育とし、翌30日は休日保育として開所、病院職員の就労を保障してきました。

### 1、利用児童数

#### ① 日中園児数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	0	0	1	2	3	3	2	4	6	6	7	7

#### ② 夜間保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	14	12	27	13	18	33	18	13	15	18	18	13

#### ③ 休日保育のべ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	0	3	2	4	6	10	5	2	10	3	7	8

### 2、職員配置

4月から正規職員1名、6時間保育士1名、4時間保育士1名、6時間の保育補助（夜

間・休日保育) 調理員 1 名、夜間担当保育士 1 名 (週に 2 日、2 時間勤務) の 6 人で対応してきました。8 時間常勤 1 名でシフトを組むと保育補助が 1 名だけになる時間がどうしてもできてしまい、非常勤の園長や短時間の保育士の勤務時間や勤務日数を増やしてもらうなどしてカバーしてきました。8 時間常勤 1 名の体制は 2022 年度のスタートも同様なので、無理なくシフトが組める職員体制は引き続きの課題です。

### 3、保育内容

#### ① 日中保育

- ・入園時にはオリエンテーションと慣らし保育を丁寧に行い、子どもも保護者も安心できるように取り組んできました。
- ・一人ひとりの生活リズムを大切に、個別的な配慮や援助を行いました。睡眠や食事等保護者の悩みや要望を聞きながら、家庭と連携して取り組んできました。

#### ② 夜間保育

- ・年齢差や遊びの興味の違いがある中で、子どもたちの状況を見ながらケガや事故の無いように配慮してきました。また、その子の好きな遊びを用意するなど、夜の時間帯も楽しく過ごせるようにしました。
- ・利用児の中には障害のあるお子さんもいるので、その障害について学習し、関わり方を職員間で確認しました。

#### ③ 休日保育

- ・年度初めに 32 日の休日開園日の日程を保護者に知らせました。利用希望者がいない日もありましたが、それ以外の日は開園しました。

### 4、健康

- ・内科、歯科検診は下馬みどり保育園にあわせて実施してきました。
- ・新型コロナウイルス感染予防から登園時の手洗いや検温など、念入りに体調の視診を行いました。
- ・軽い胃腸炎の流行はありましたが、その他の感染症が流行ることなく過ごせました。

### 5、安全衛生・環境整備

- ・避難訓練は下馬みどり保育園と共同で実施しました。
- ・採光、換気、冷暖房、湿度の管理を適切に行ってきました。また、感染症対策として玩具や保育室の清掃に配慮してきました。

### 6、職員研修

- ・職員会議の際には学習も取り入れ職員間の認識が一致するように学んできました。ま

た、季節的な流行に対応すべく、冬には嘔吐物処理を学び、救命救急講習は下馬みどり保育園と共同で行いました。

- ・園外研修にも6時間パート保育士と保育補助者が参加しました。

#### 7、坂総合病院との連携

・監査対応を坂病院のくさの実保育園担当者（総務）と一緒に行いました。事前資料の準備から一緒に行うことで、くさの実保育園の状況を坂の職員に知ってもらう良い機会となりました。また、師長室との懇談も持ち、看護職員の復職状況などを聞くことができました。今後も積極的に連携を深めていきます。

## 古川くりの木保育園

2021年度、古川くりの木保育園の保育所経営を次の取り組みで行われました。

### 事業規模

#### (1) 入所児数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0歳	8	8	10	10	11	12	12	12	12	12	12	12	131
1歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
2歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
3歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
4歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
5歳	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
合計	84	84	86	86	87	88	88	88	88	88	88	88	1043

#### (2) 職員体制

	保育士	栄養士	調理員	看護師	園長	事務・用務	合計
正規職員	15	1			1		17
臨時職員	2						2
パート 6.0H	3		1	1		1	6
パート 5.0H	0		1			1	2
パート 4.0H	3		1				4
パート 3.0H			1				1
合計	23	1	4	1	1	2	32

- ・ 正規保育士1名が1年間の育児休業を取得し1月に復帰しました。パート保育士1名は1年間の育児休業を取得しました。

#### (3) 保育事業内容

- ① 基本的運営は、事業計画通り入所児童に基づき運営費と特別事業の補助金・利用料と大崎市独自の補助金（私立保育園運営費補助と障がい児保育補助）の収入で予算通り事業運営が行われました。
- ② 特別保育事業として、乳児保育（12名）障害児保育（1名）、一時保育（年間599名）病後児保育（年間83名）、延長保育事業（標準時間—1時間延長児7名、短時間—延長児1名）を行いました。

#### (4) 職員の業務分担と役割

- ①0歳児1クラス、1歳児1クラス、2歳児1クラス、3歳児1クラス、4、5歳児混合1クラスの5クラスを担当保育士13名で保育を進めました。障害児保育担当1名、一時保育、病後児担当の職員を配置しました。
- ②一時保育、病後児保育は4名の担当職員と管理部・事務が協力して対応しました。
- ③事務は本部の指導の下、経理・総務業務を事務員と管理部が協力して日常業務に支障のないよう努めることができました。
- ④食育については栄養士が中心になり離乳食の進め方（在園児、一時預かり）、菜園活動、クッキングを保育士とともに取り組みました。
- ⑤保健業務は、看護師が日常の子どもの様子を視診、怪我の応急処置、薬の管理、身長体重測定、健診準備、保健便り、病後児保育など多岐にわたり役割を担い遂行できました。

#### (5) 設備・環境・保育材料について

- ①保育教材などを計画的に購入し、保育内容の充実に努めました。
- ②安全の為細かい補修や園庭の整備、点検、清掃などは用務員を中心に行いました。

## 2. 保育内容について

### 1) 保育内容

- ①一人一人の気持ちに寄り添う保育を目指し、全職員で学習を行い、総括等でも深めることができました。集団作りでは、2人組、グループ活動の人数などアドバイスをもらい、すぐに実践をしました。安心して自分の気持ちを相手に伝えることや、仲間と共有する経験を積むことができました。
- ②障害児保育は今年度5歳児1名の児童が在籍しました。安心して仲間の中で過ごし、自分を表現すること、人と関わる楽しさを感じられるよう保育を行って来ました。また、保問研の自主学習に参加し、他園の職員からアドバイスをもらいながら保育をしました。

### 2) 保護者との関わり

- ①コロナの変異株が出現し、乳幼児への感染が広がっています。その中で、できる限り保護者が参加できる行事（運動会、クリスマス会、卒園式）を行いました。保護者が集う懇談会は前期1回となり、子育ての思いを共有することが出来ずにいます。
- ②今年度は、コロナウイルス感染が保育園関係者でも発生し、1月と3月に全面休園と一部休園になりました。保護者の中には、自営業を営んでおり風評被害を心配される方、変異株でウイルスの残存期間について疑問を持たれる方など園への対策に不安を感じている方もいました。今後も感染対策等を保護者に伝えながら、安心して保育園に預けられるよう徹底していきたいと思います。

②保護者と日頃からコミュニケーションを計りながら、子どもの様子・成長を喜び合いました。子育ての悩みなども聴くなかで信頼関係づくりを大事にしてきました。子育てに不安を感じている保護者や5歳児には個別面談を行うことで、不安を解消し、安心できるよう関わってきました。

### 3) 安全管理

①危機管理委員会を設置し（保育士・栄養士）、災害・防災について検討しました。園内の危険箇所を回り、気づいたことを改善してきました。今後も安全管理に努め子どもたちや保護者が安心して保育園生活を送れるようにしていきたいと思えます。

②緊急メールシステムを活用し、感染時などすぐに情報を保護者に知らせることができました。

③災害対策として、毎月の避難訓練と年1回の不審者対策訓練、散歩時における地震訓練、年1回の水害訓練、年2回の総合避難訓練を実施しました。

④不審者対策として、日中から午睡にかけての時間帯は玄関の施錠を引き続き行っています。

### 4) 職員研修について

中堅職員を中心として自主研修委員会を立ち上げ、自ら学びたいことや職員の興味あることを取り上げ、学習しました。職員を誘いあい、1年間学び合うことができました。民医連の人権カフェを全職員会議で取り上げ、グループワークや感想交流を行いました。どの職員からも有意義な学習だったと感想をもらいました。

また、zoomの研修も増え、キャリアアップ研修、保育プラザ、全国保問研・全国合研の研修にまんべんなく参加することができました。

前期の総括会議では、乳児組では子どもとの信頼関係づくり、幼児組では、集団作りに焦点を当て、自分の保育を振り返ることの大切さ、法人理念に基づいた保育ができていたかなど話し合うことができました。後期総括会議は、コロナウィルスの発生で中止になりました。

### 5) 小中学校や地域との連携

コロナウイルス感染症の為、地域の交流はできませんでした。一時預かり事業を通して、地域のお子さんの子育ての応援を行うことが出来ました。

保育実習生の受け入れを2名行いました。看護実習生・職場体験は行いませんでした。小学校の連携では、連絡会で引き継ぎを行い、児童の様子や配慮が必要なお子さんや保護者への対応など学校と伝え合いができました。合わせて保育要録を学校に提出しました。

### 6) 今年度の重点事項

①保育園の園内環境を充実させます。保育室・園庭など子どもが過ごしやすい（すぐ玩具が取れる環境・動線・園庭の植物など）を全職員で学習し、改善できるよう努めます。

- ② 職員研修をさらに充実させるために、オンライン研修を基本に行っていきます。1人1人が保育の向上に努められるよう、計画を立てながら行っていきます。
- ③ 大崎市の待機児童・出生数が減少傾向にあり、保育園入所児童が減っています。園児獲得のために、ホームページを新しくする、園見学の工夫も行っていきます。
- ④ 一時預かり事業は、0歳児の受け入れを行い、入園獲得につなげます。利用してよかったと思える保育、子育ての悩みに寄り添っていきます。
- ⑤ 社保委員とともに社会保障、憲法学習、保育情勢、福祉について学び合う機会を増やしていきます。法人研修・民医連研修に全員が参加できるようにします。

## 7) 保健活動について

### 《2021年度 投薬依頼数》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	198	172	195	195	160	110	161	160	234	79	117	95	1876

### 《2021年度 アクシデント件数》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	9	10	13	8	6	10	9	13	7	6	5	0	96

投薬依頼は、風邪による依頼が大半を占めています。昨年度比で143件依頼が減少しましたが、臨時休園が2回あったことが大きいです。

保育中のアクシデントについては、咬傷が大半を占めています。受診をしたケースは、レゴブロックを鼻に詰めてしまい耳鼻科受診をしました。思いもよらぬ事故も想定して対応に努めていきたいと思えます。

## 8) 給食・食育活動について

栄養士が中心となり離乳食、アレルギー食（1名）など一人ひとりに丁寧に対応してきました。家庭と食材の確認をしながら丁寧に進め方・与え方・作り方などを一緒に考えて行ってきました。

行事食は毎月1回のお誕生会、収穫祭、焼き芋会、クリスマス会、豆まき会を行いました。

食育活動では、コロナウイルスの状況下でしたが個人でできるおにぎりづくり、ポップコーンなどを行いました。野菜の栽培活動を通して、大豆から味噌ができたがる工程も子どもたちと取り組みました。“楽しく食べる”ことを今後も大切にしていきたいと思えます。



### 3. 補助金による事業

#### ①延長保育事業

##### 《2021年度 利用状況》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年平均
18:01時点の平均数	9	8	7	8	8	6	7	7	6	6	4	6	7
18:31時点の平均数	4	4	4	2	3	4	4	5	4	4	4	3	4
16:01時点の平均数	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1

職員3名で18時以降の延長保育にあたりました。18時以降の利用は減少しました。

#### ②病後児保育事業

##### 《2021年度 病後児利用状況》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	2	6	15	1	14	19	7	0	12	0	6	1	83

病後児の利用は年間83名でした。昨年比+32で他園のお子さんの利用も増えました。

在園児42名、その他の園41名でした。

#### ③一時保育事業

##### 《2021年度 一時保育利用状況》

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	43	38	49	53	52	52	54	53	50	35	53	67	59

一時保育の利用者数は、延べ599名でした（昨年比-247）。今年は、職員体制が取れず1歳児からの受け入れになりました。

#### ④障害児保育

5歳児1名の障害児を保育士の加配を行いながら支援しました。保健師・保護者と連携し子どもの姿、目標を共有しながら保育を行ってきました。

## 岩切たんぽぽ保育園

2021年度、岩切たんぽぽ保育園の経営について次のように取り組みました。

### 1. 事業規模

#### (1) 入所児童状況 毎月1日現在（定員90名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	8	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
1歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
2歳	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
3歳	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11
4歳	14	15	15	15	16	16	16	17	17	17	17	16
5歳	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
合計	73	74	74	74	75	75	75	76	76	76	76	75

・0歳児9名（7月に1名入園）となり、4歳児が5月8月、11月と3人入園となった。退園は3人（3歳児、5歳児）となった。2歳児は5が16日付けで、退園と同時に1名入園となるなどそれぞれ交代となった入園状況でした。

#### (2) 職員体制

	園長	保育士	栄養士	調理員	看護師	事務	用務員	合計
正規職員	1	13	1					15
パート6H		2						1
パート5H		1		1		1		3
パート4H		1		2	1			4
パート3H		1					2	3
パート2H		1						1
合計	1	19	1	3	1	1	2	28

※嘱託医・宮林こどもクリニック（小児科） ひだまりデンタルクリニック（歯科）  
4月時点では、新人保育士1名を迎え、正規保育士13名、パート保育士6名にてスタートしました。2022年2月には育休中だった保育士がフリーとして復職しました。0歳児9名を2人の正規職員とパート保育士（6時間4日、午後パート）等の体制（仙台市と確認）で頑張ってくれました。

#### (3) 保育事業内容

保育事業収入は、11,820,623円。そのうち委託費収入は9,215,330円でした。補助金は以下の通りでした。

事業名	補助金額	事業名	補助金額
私立保育所等助成	3,564,000 円	栄養士看護師雇用助成	1,368,000 円
病原性大腸菌検査補助	106,750 円	スタートアップ事業補助	293,280 円
施設機能強化加算	160,000 円	キャリアアップ補助	50,000 円
暖房燃料費補助	288,000 円	新型コロナ感染対策補助	500,000 円
延長保育補助	2,895,000 円		

- 乳児保育は8名からスタートとなり、2名正規保育士とパート保育士（6時間4日）+8時間パート1日という職員集団で運営してきました。7月に0歳1名入園し9名の集団となりました。また増収に繋がりました。
- 延長保育は2時間延長を実施してきましたが、2022年1月~3月まで対象園児は該当しませんでした。当初利用する園児がないことを見込み予算はたてました。
- 特別支援事業  
1人継続児がいましたが、6月にも1人4歳児クラスが該当し、2人となりました。
- コロナウイルス感染対策特別事業として50万円頂きました。

## 2. 保育内容

### ①保育方針に沿って

- ※ 児童憲章、保育指針に基づいて、子ども達の心身の健やかな育ちを保障するために取り組んできました。コロナ禍で行事のやり方、意義など職員同士で検討しとりくみました。保護者の方の力も借り夏祭り、5歳児の夕涼み会などと一緒にとりくんできました。運動会、発表会に関しても子どもたちの成長の場としてとらえ、保護者の参加人数の制限、クラス入れ替えなどしながら実行しました。保護者からは「中止でなく、感染対策に気を付けながら実施してくれたことに感謝します」という声があがっていました。
- ※ 「寝る・食べる・遊ぶ」などの基本的な生活を大事にし、春の懇談会、給食便り、クラスだよりなどでアピールしてきました。年度末の保護者アンケートでは保育園にたいして高評価でした。引き続き連携をとっていきます。
- ※ コロナウイルスが終息の見通しがないところで、子ども達が健康に過ごせるように対策をとってきました。一年を通して保育士、看護師と連携し保護者の協力をもらいながら感染症の予防に取り組んできました。子どもの発達に応じて、手洗い、うがい、歯磨きの習慣が定着するように各クラス毎に指導してきました。
- ※ 子どもの発達を十分理解し、一年を見通した活動に取り組めるようにしてきました。日常的に子どもの姿を伝えあい、職員全体で一人ひとりの子どもを見ていく視点に立てるようにしてきました。年2回の総括では、経験年数、新入職員の関係なく自由に発言できるようになり、風通しの良い職場になってきていることが実感できました。

※ 子どもの内面を捉え、どの子ども安心して自分を表現でき、気持ちよい生活ができるようにしていきます。また様々なことに意欲的に取り組めるように保育内容について検討してきました。

※ 特別支援を必要とする園児に対しては、加配担当の職員に任せることなく、幼児組として会議も中で話し合ってきました。当初4歳児クラスに1名のみでしたが、6月から4歳児に対象児が該当し、4歳児クラスに2名となりました。そのほかにも個別の援助が必要な子どもがいるので、発達援助と共に、クラスの仲間と育ち合う関係づくりをしてきました。また保護者とも面談重ね、発達支援センターなどにつなげてきました。(2022年4月から該当となりました)

### (3) 安全管理

① 安全管理マニュアルを全職員で確認し、ヒヤリハット報告を共有して、安全に対する意識を常に持てるようにしてきました。また日常散歩コースの確認、すぐに避難できる場所など確認してきました。園外保育(散歩)や毎日の登降園時は、交通量の多い道路に面している保育園として、安全への配慮が特に必要となるので、園児、保護者への注意喚起を同時に行ってきました。今年度は2回深夜に地震がありました。通知なしで昼食時間での避難訓練などを行ってきました。また登米でおきた不審者対応も、マニュアルの見直しをしてきました。

毎月の避難訓練は様々な想定(浸水、竜巻、不審者、交通事故など)を考え計画実施してきました。マニュアルだけでなく、職員自らも危険予知ができるよう自ら判断し行動できるようにしてきました。

② 安全な生活が送れるように。施設点検を定期的に行い、危険個所の把握、改善に取り組みました。用務員小林さんの力を借りながら、階段の隙間のネットはりなどしてきました。保護者からの門扉への改善求める声があり、業者と相談しましたが、今後予算も含め検討事項です。

③ 自然災害発生時には、安否確認アプリシステムを活用し保護者に情報を発信してきました。ただ停電になったさい、スマホに設定していなかったことで、保護者に迅速な情報を提供できなかったことがありました。(その後は設定しました) コロナ関連情報は安否確認アプリを使って情報を発信することができました。

#### ④ 保健活動

年2回の内科健診、1回の歯科健診を実施できました。年間を通して看護師を中心に感染症予防に取り組み、保護者にも適宜掲示などで情報提供と予防をよびかけてきました。特にコロナ禍での流行により消毒、手洗い、健康カードの記入など予防対策に取り組んできました。

病欠の主な病名

病名	嘔吐下痢	RS ウイルス	手足口病	溶連菌	コロナ
人数	34	16	2	4	6 (31日3人)

コロナウイルスに関しては近隣の小学校が感染まん延の状況だったにも関わらず、増えることはなかったが、年度末になり、年長クラスがり患してしまいました。

与薬

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
数	50	84	101	97	75	113	110	120	131	93	131	143

合計 1268 件

### ⑤ 給食室・食育活動

・栄養士と調理員 4 人体制で給食室業務を行いました。今年度は 2 名のアレルギー食、0 歳児の離乳食、配慮食の対応をしました。コロナ禍で野菜の皮むき、クッキングなどは中止となりましたが、栄養についてのお話し、行事食、大きな魚を捌くなどの取り組みをしました。また保護者から献立の質問があり、メニューの配布などしてきました。展示食にも興味を持つ保護者が多く好評でした。ただ食材の値上げなど、予算から実績があがっていることには課題が残ります。

### ⑥ 安全管理

※職員 1 人一人が保育の中での危機を回避する意識が持てるように、毎月の会議でヒヤリハット、事故報告を共有し園全体でケガや事故のない保育を目指しました。大きな事故はなかったものの、園庭にて擦り傷はおおかったです。

病院受診結果 9 件 内訳 10 件 (眼科 3 件、整形 1 件、形成外科 1 件、小児科 1 件)

※大事には至らなかったが、職員の不注意もあり肘内障での 2 件は要注意の案件で、全職などで確認しています。

避難訓練:早朝、2 時間延長など様々な時間で実施してきました。地震、火災、竜巻、浸水を想定した訓練をしてきました。また不審者対策対応も 2 回行いました。特に今年度は県内において不審者がでたこともあり、対応について全職にて再度確認しました。

## 3. 保護者支援と連携

- ① 保護者との信頼関係を築けるよう、疑問には丁寧に応えるようにしてきました。生活実態や仕事の状況が理解できるように努め、子育ての思いに寄り添いながらよりよい子育てができるように支援していきました。
- ② 今年度はコロナの関係で保護者懇談会が 1 回のみとなりましたが、今年度は感染対策に気を付けながら実施してきました。1 月下旬から、感染者が増えたことにより、3 クラスのみ 1 回のみの懇談会となりました。その分、書面にて懇談会を行ってきました。懇談会の位置づけとして、子どもの発達や子どもとの関わり方を理解してもらえ、また保護者同士が子育ての困難、楽しいこと情報交換の場として開催してきました。保護者から回答し大きな行事のあとにとったアンケート、保育園の評価としてとらえ、改善点や課題は職員で共有し今後の取り組みに反映させていきます。
- ③ 園だより、クラスだより、行事の写真の掲示で、園の方針や子どもの様子が保護者に伝

わるようにしていきます。また既存のホームページから入所の問い合わせがありました。

- ④ 看護師の専門性を生かし、子どもの健康に関する相談などを通じて育児不安が軽減できる支援をしてきました。

#### 4. 職員の研修と評価

- ① 新入職員と共に、ひとり一人の子どもを大切にする保育の意味が捉えられるよう学習を進めてきました。子どもの発達について学び、共通の認識が持てるようにするとともに、職員の不安や疑問に答え、保育に意欲的に取り組めるような環境づくりをしてきました。また自主的な保問研に参加し学び、生き生きとした集団になってきています。
- ② キャリアアップ研修を含め、計画的に園内外の研修にどの職員も参加できるようにし、個人の資質を高めるようにしてきました。学んだことを復命することで、全職員の学びにつなげてきました。コロナ禍で ZOOM にて職員みんなで同じ話を聞き共通理解できる場として法人研修や自主研修（保問研・合研）の参加し学べた年度となりました。
- ③ 年 2 回の自己評価と保育園評価を計画的に行い、より質の高い保育をめざしました。パート保育士とクラス保育や園の保育方針を理解してもらうためにも、総括にはできる限り参加してもらいました。

#### 5. 小学校や地域との連携

- ① 地域の子どもの健全な育成を図るため、「岩切子育てネットワーク会議」に参加し、関係機関との連携を深め、会議には積極的に出席してきました。
- ② コロナが終息しない中、地域の未満児園児を対象に親子で触れ合う「わらべうた」を中心に「遊ぼうかい」「園庭解放」などは開催を見送りました。  
近隣住民とのつながりを大切に、太鼓を使うさいには、近隣住民の方に、ご理解のチラシを配布するなどして、会話などもしてきました。

#### 6. 全体をふりかえって

○管理部が中心になりながら、一人一人の職員を尊重し、生き生きと働ける職場づくりに努力してきました。また日常の報告、連絡、相談は重視してきました。

今年の大きな成果として、保育署名の取り組みがあります。法人内の社保の学習会后、新人職員が保育署名の取り組みにあたり保護者むけポスターを作り玄関前に張り出したこと。保護者会役員かいにて署名の取り組みに賛同してもらったこと。個別に封筒に入れて保護者に署名の訴えをお願いしたことや職員も友人、近所をお願いするなど、509筆の署名を集める事ができました。数では決して多くはありませんが、保護者との信頼関係培ってできた大きな運動となったことと評価しています。

○今年度は75名の入園児童数（76名もありましたが）の実績でした。経営を守るためにも90名定員にすることの大事さなどを法人内の協力もあり、全職会議で「保育園のしくみ」

(乳銀杏保育園から資料提供) の学習をしました。来年度の園児増にむけての意思統一ができました。

## 工房歩歩

### 1. 施設運営状況

#### 【施設利用者数推移表】

2022年3月31日現在

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
女	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3
合計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14

#### 【就労支援事業支援費収入推移表】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,672	1,549	1,866	1,870	1,765	1,824	1,759	1,863	1,735	1,727	1,743	1,954	21,334

### 2. 施設運営について

- (1) 職員配置状況：管理者兼サービス管理責任者 (1) 職業指導員 (3)  
生活指導員 (1)
- (2) 利用者様状況：療育手帳B (13名)、精神保健手帳 (1名)
- (3) 収支状況：21年度内では利府支援学校卒業生や在宅の方の利用希望、退所者がいなかったので登録人数に増減は無かったです。収入ではコロナワクチン接種の副反応により休む利用者さんが例年よりも多く、若干の減額となりました。

#### 【2021年度PC解体・清掃業務売上推移表】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
178	258	265	307	244	287	304	305	279	256	257	297	3,242

#### 【2021年度月別工賃支給額】

(単位：千円)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
172	162	191	185	174	185	179	188	178	173	177	200	2,169

### 3. 就労支援事業について

- (1) 清掃事業は、年度初めはコロナの影響により感染防止の為に清掃範囲を制限している状態でした。清掃が早く終わるので事業所に戻ってから、PC解体や事業所内外の清掃を行っています。5月からは通常清掃に戻っています。移動しての除草作業や洗車・車内清掃も行っています。
- (2) PC解体事業は、解体個数が安定せずバラつきが目立っており改善が必要です。他に、除草作業や洗車作業に人員を割いたことや、ワクチン接種による副反応での休



みが影響しています。

- (3) 施設外作業は、田子のまち、宮城野の里の除草作業、園芸作業、送迎車の洗車・車内清掃を行い、サテライト史は除草作業を行っています。期間は初夏から秋終盤の間に2回ほど実施しました。

#### 4. 2021年度行事について

7月	昼食会	健診後、利用者14名、職員5名
10月	個別支援計画面談	利用者14名
11月	石ノ森漫画館見学	利用者13名、職員5名
12月	交流会（食事会）	利用者9名 職員5名
3月	個別支援計画面談	利用者14名

#### 5. 2021年度総括

4月時点では、利府支援学校卒業生2名が利用登録となり登録者数は15名で始まりしました。8月に精神状態が安定せず利用していなかった方が、受給者証更新月に面談を行い退所しました。その後増減は無く14名となりました。相談支援員と打ち合わせをしているが、中途での利用者獲得はできなかった。利府支援学校からの実習生受け入れは、コロナウイルスの影響もあり、実習時期の変更等があったが無事に実施することができました。前期・後期合わせて4名の生徒を受け入れ、(3年生1名、2年生2名、1年生1名)3年生1名は次年度の利用に結び付けることはできませんでした。

清掃事業では、4月はコロナの感染対策として入居者の居住スペースに近づかないように清掃を行うため、実施時間が短くなり収入が減額となりました。5月からは通常清掃となり、利府地域内で感染者が発生しても通常通りとなっています。洗車・車内清掃、除草作業の依頼があった時は、解体事業の利用者さんと一緒に作業に関わっています。普段とは違う作業内容になるので利用者さんにも良い刺激となり意欲向上に繋がっていました。

PC解体事業では、事業所内での解体作業は特に変更等は無く継続して進めています。時期によって外部作業に入る利用者さんも居たので、解体台数にバラつきがあったが、作業人数が多い時でも解体台数が少ないことがあるため、原因を探し対策を考慮し改善へ繋がっていきます。

2021年度も利用者さんの確保や事業拡張での収益増を目指してきましたが、相談支援事業所等からの中途での登録は無かった。作業は法人内ではあるが除草作業や洗車・車内清掃を増やしており、新規作業と今までの作業での効率の良い進め方がまだ確立されていないので、試行錯誤を繰り返しながら進めていく必要があります。清掃事業でも風の音以外にも幅広く参加できるよう計画を練っていく必要があります。

行事等については、実施数は少なかったが、密にならず感染しないよう配慮して実施日や場所、訪問先に連絡して調整を行いました。仙台圏での感染者の高止まりに伴い、朝・夕

仙台を通過して電車通勤している職員 1 名を感染定策のため時差出勤としました。

新年度は 14 名でのスタート予定となっており、21 年度との変化は特にありません。6 月には新たに実習生の受け入れの話があり、21 年度に実習を行った生徒さんも実習予定となっているのでコロナの状況を見ながら受け入れを行い、2023 年度の利用者獲得に繋がられるようにいたします。相談支援事業所等にも継続して声かけを行い、10 月頃までに地域内からの最低 2 名の利用者獲得を図っていきます。

作業については現状の作業の効率化を図るため、作業環境や工程の見直しを行いました。新規作業についても模索していくが、2022 年 3 月に新入職職員 1 名が入り、2022 年度で職員 1 名が退職の予定となっています。職員の育成と新たな募集が必要と考えられ、事業の拡大は難しいと思われるので、状況を見て判断しながら利用者さんの獲得、就労支援作業の計画、職員の育成と採用を行います。

## 障がい児者サポートセンターとして

### 1 各事業の基本方針

#### (1) 【児童部門】

住み慣れた地域で相談から療育までのワンストップでの支援、そして幼児期から少年期までのライフステージで個々の状況に応じた専門性のある支援が多機能に提供できるセンター機能の定着を図ります。

#### (2) 【就労部門】

地域で生活する障がいのある方々が「働くこと」を通して、一般就労や生産活動を行う中から働く事の楽しさを知り、また、生活していく力を養い、社会的自立に向け訓練から雇用までのステップアップを実現する事を目的に支援を図ります。

#### (3) 【相談部門】

身体・知的・精神など障がいのある方や、その家族が抱える様々な悩みや困りごとについて相談を受け、必要な福祉サービス計画を作成しながら、福祉の制度及び地域にある資源の情報を提供します。また、各機関と連絡調整を図りながら、利用者のニーズに応えるよう努めます。

### 2 施設運営の方針

#### 【児童部門】

- (1) 個々の発達状況に合わせた早期かつ専門性をもった支援の実施
- (2) 地域関係機関・専門職及び家族との連携による発達支援の実施
- (3) ライフステージに対応した支援体制の構築
- (4) 相談から療育まで一貫した支援が可能な児童発達支援センター機能の定着化
- (5) 地域に開かれた児童発達支援センター事業の展開

#### 【就労部門】

- (1) 利用者の適性、個性を大切にし、生きがいを持って働くことができるように支援する。
- (2) 地域社会との関わりや保護者及び関係機関・団体との連携を図りながら、利用者の社会的経済的な自立促進を目指す。
- (3) 経営基盤を安定させ、地域に貢献できる組織づくりを目指す。

### 3 児童発達支援事業所の取り組み

- (1) 児童発達支援センター りんごのほっぺ稼働状況

重点目標・ ・①保育士の確保 (2020年5月までに1名) ⇒7月1名入職 (保育士)

②新しい療育環境の構築 (2020年9月まで) ⇒2022.2月完了。

③月間平均稼働率90% (2020年9月まで) ⇒2022.3時点 未達

① 定員数：10名 契約者数：12名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	18日	22日	20日	14日	18日
延定員数	210人	180人	220人	200人	140人	180人
延利用者数	81人	60人	69人	70人	58	58人
稼働率	39%	33%	31%	35%	41%	32%
平均人数	3.8人	3.3人	3.1人	3.5人	4.1人	3.2

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20日	20日	19日	18日	18日	21日	229日
200人	200人	190人	180人	180人	210人	2,290人
104人	94	117	106人	92人	150人	1,059人
52%	47%	62%	59%	51%	71%	46%
5.2人	4.7人	6.2人	5.9人	5.1人	7.1人	4.6人

②年間行事

実施月	内 容	実施月	内 容
5月	小遠足①	10月	遠足
6月	保育参観①	12月	保育参観②・クリスマス会
7月	小遠足②	2月	豆まき
9月	前期健康診断	3月	後期健康診断
			修了式・保育参観③

※夏季期間…水遊び 冬季期間…雪遊び

- ・家族とは常に発達状況の共有を図り、家族の不安軽減を図りながら一体になった発達支援を実施していきます。

③総評

2021年度は期首登録者数5名という少ない人数からのスタートとなりました。そのため稼働率は上記の表のとおり予算を大きく下回っています。

5月から大崎管内の健康推進課の担当保健師を訪問するなどして、センターの空き状況を伝えながら見学者の誘致を始めました。この2ヶ月間で4件の見学者に來訪していただき、そのうち1名が7月から、2名が8月から利用開始となり、登録者数を8名まで伸ばすことができました。この間、法人常務会の協力をいただき経営対策会議を定期的開催し、現状の課題、経営目標、達成期間等について確認を行ないながら経営改善に向けた取り組みを実施しています。その後も営業活動を継続的に行い、11月に1名の方と契約を結び登録者数9名となっています。ただこれまでの期間で

契約した方たちは週5日通所の方が1名、他3名の方たちは幼稚園との併用で週2日の利用というかたちとなっており、稼働率で予算を達成するまでの登録人数までには至りませんでした。そこで経営対策会議でさらに対策を講じて、併用者と週5日利用する方を両輪で獲得していくという方針をもって営業活動を実施しております。結果、12月には登録者11名、2月は12名、3月は14名と大きく登録者数を伸ばすことができました。

事業所活動として予定していた行事は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたため中止にしたものが多く、保育参観も開催を見合わせています。施設内で子どもたちと「夏祭り（ごっこ）」「ハロウィン」「クリスマス会」「豆まき」と小規模な活動に制限せざるを得ませんでした。それでも現場では子どもたちひとりひとりの気持ちに寄り添った療育を実践しています。あるお子さんは、幼稚園での活動になかなか参加できず先生と二人でいることが多かったのですが、当園に通園するようになってから自分に自信が持てるようになりお友達と一緒に遊んだり、活動にも参加できるようになりました。担任の先生が事業所の見学にも来ています。この幼稚園からはもう一人のお子さんが当園と契約しています。また、幼稚園に登園していましたが集団活動に参加することができず、居場所を見つけることができなかつたお子さんが、幼稚園を退園して、週5日センターへ通園するようになりました。通園当初は情緒的に安定せず癇癪を起こすことが多かったのですが、保育士や環境に慣れたこと、何よりも自分をしっかり受け止めてもらえたと感じてもらえたことで現在は安定して通園することができています。お子さん一人一人の想いを大切にすることができた一年間でした。

今年度は利用登録者が少ないという厳しい状況下でのスタートとなりましたが法人常務会、関連機関の協力で登録者数を大幅に増員することができたということは大きな成果となっています。2022年度はこの流れを止めずに事業を実施できるようにしていきます。

## (2) 放課後等デイサービス てくてく稼働状況

重点目標：①発達状況に応じた安心・安全な療育支援⇒2022.7 環境の安全確認実施

：②子どもたちの活動できる環境の整備⇒2022.7 園庭に砂場を設置

：③報酬改正に対応できる体制づくり⇒2022.4 基本報酬単位復帰、加配取得

### ① 定員数：20名 契約者数：29名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	18日	22日	20日	14日	18日
延定員数	420人	360人	440人	400人	280人	360人
延利用者数	332人	321	322人	282人	201人	188人
稼働率	79%	89%	73%	71%	72%	52%
平均人数	15.8人	17.8人	14.6人	14.1人	14.3人	10.4人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20日	20日	20日	19日	18日	21日	231日
400人	400人	400人	380人	360人	420人	4,620人
294人	267人	290人	246人	225人	245人	3,213人
74%	67%	73%	65%	63%	58%	70%
14.7人	13.4人	14.5人	12.9人	12.5人	11.1人	13.9人

## ②年間行事

・季節毎に年間の行事を定め、季節行事の経験、小集団での社会体験の場としていく。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見	10月	紅葉狩り
5月	社会見学	11月	社会見学
6月	茶話会 遠足	12月	クリスマス会
7月	親子クッキング	1月	雪遊び
8月	電車体験	2月	豆まき
9月	芋煮会 遠足	3月	ひな祭り

※7月～8月学校夏休み ※12月下旬～1月上旬学校冬休み

※3月下旬～4月上旬学校春休み

## ③総評

2021年度は4月より職員体制が一新したかたちでのスタートとなりました。職員が慣れない中でのスタートとなりましたがこれまでの活動の流れを引き継ぎながらなんとか前半戦を乗り切ることができました。6月に入り、これまで利用していた方たち4名が他事業所へ移っていきました。そのため、登録者数は33名から29名に減っています。この間、職員体制が落ち着くまでは新しい利用者との契約は結んでいませんでした。そのため稼働率は当初予算から大きく下回る結果となっています。

事業所の活動では子どもひとりひとりに合った活動を準備し、集団生活、対人コミュニケーション、社会性、協調性などを身につけることができるよう「夏祭り（ごっこ）」「毎月のカレンダー制作」「季節の創作」「公園遊び」「電車見学」など様々な活動を提供してきました。また、地域の社会資源を活用することで子どもたちが地域の一員であることを体験してもらえよう活動も提供しました。この一年間で子どもたちは遊びの幅が増え、お友達との関係性を深めることができるようになりました。新型コロナで活動は制限されていた中ではありましたが、そうした中でも子どもたちはたくましく成長した姿をみせてくれた一年間でした。

今年度は利用者が途中で退所するというイレギュラーなことがありました。稼働率、当初予算ともに未達という結果です。この反省点を踏まえ、次年度へ向けた取り組みを始めています。次年度は新規契約者5名となります。新しい仲間を迎え、さらなる

飛躍を遂げることができるよう一丸となって頑張っていきます。

### (3) 保育所等訪問支援 てとて

重点目標・・・①児童発達支援との密な連携の構築

②学校関係への事業内容の周知

#### 【取り組み内容】

項目	具体的内容
個別支援計画	障害児の身体、精神の状況及びその置かれている環境に応じ計画書を作成し、実施状況の把握、評価を実施していく。
訪問支援	保育所等の施設を訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援（利用者及び保育士等へ）を実施していく。
家族支援	家族からの医療・福祉・生活等のご相談に応じるとともに、希望に応じて療育技術の指導を実施していく。

### (4) 相談支援事業所てとて

重点目標・・・①新たに配置する相談支援専門員への丁寧な引き継ぎの実施。

②特定相談支援（障がい者相談支援）の休止。

③大崎圏域相談支援事業所との連携。

項目	具体的内容
計画の策定	相談に来所された方のアセスメントを実施し、当事者及び家族のニーズに寄り添った計画書を作成します。
訪問支援	計画策定後の定期的なモニタリングを実施します。
家族支援	家族からのニーズに応じて、医療・福祉・行政等と連絡調整を図ります。

今年度は児童発達支援センターの新規契約に大きく貢献した一年でした。相談部門での新規契約を増やすことで、センターの利用開始をスムーズに行うことができました。その他にも情報共有をすることでセンターの新規利用者獲得に大きく貢献してもらっています。

#### 4 就労支援事業所の取り組み

##### ② 【就労継続支援B型事業】

重点目標・・・①利用者の獲得⇒2022.3時点 登録者数：23名

②年間平均稼働率⇒93.7

③利用者へ提供する作業量の確保⇒達成

定員：20名 契約者数：22名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	22日	22日	22日	22日	20日
延定員数	420人	420人	440人	440人	440人	400人
延利用者数	349人	377人	396人	398人	350人	360人
稼働率	83%	86%	90%	91%	79%	90%
平均人数	16.6人	17.1人	18.0人	18.1人	15.9人	18.0人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20日	20人	20日	19日	19日	22日	244日
400人	400人	400人	380人	380人	440人	4,960人
381人	385人	398人	376人	362人	441人	4,573人
95%	96%	99%	98%	95%	100%	94%
19.1人	19.3人	19.9人	18.8人	18.1人	20.0人	18.7人

#### ④就労継続支援B型事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
稼働日数	21日	22日	22日	22日	22日	20日
事業収入	735,997	686,965	735,914	685,225	709,827	689,587
工賃支給額	306,500	260,800	278,550	298,150	302,750	265,000
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20日	20人	20日	19日	19日	22日	244日
722,396	720,219	736,394	857,750	683,281	726,640	8,690,195
275,400	290,150	281,550	298,350	279,550	269,200	3,405,950

#### ⑤年間行事

季節毎に年間の行事を定め、社会体験の機会となるよう支援する。

実施月	内 容	実施月	内 容
4月	お花見 (中止)	12月	クリスマス会⇒お楽しみ会
8月	夏祭り (中止)	3月	カラオケ大会 (中止)
10月	芋煮会 (中止)		

#### ⑥総評

利用登録者数を23名まで増員することができました。目標としている26名に対しては予算未達となりましたが、当初予算を超える収入を得ることができた一年でした。



年間を通した稼働率も後半戦は90%以上をキープすることができました。2021年度は就労部門では初めて黒字となっています。ここに到達するまでかなりの時間を要してしまいましたが結果を残すことができたということは職員全員にとって大きな自信となりました。

就労支援事業においては、施設外就労で安定した収入を得ることができました。また施設内における受託作業も順調に推移しています。利用者の方たちのスキルも向上し、仕事が不足するという事案も発生したのでこれを反省しつつ、安定して利用者の方たちに作業を提供できるような対策を講じていきます。

7月には1名の方が一般就労をされました。就職後もジョブコーチと当事業所サービス管理責任者、担当だった職業指導員が連携してフォローを行なっています。現在も定着して会社で働くことができています。

今年前半は80%台の稼働率からのスタートでしたが後半は大きく盛り返し、予算達成という結果となっています。今後も随時見学者の受け入れを行ないながら安定したサービスの提供と稼働率を維持していきます。

## 5 地域との交流、地域資源の活用

- (1) 地域行事等の参加を通し、地域に開かれたセンターの定着化を図る。
- (2) 近隣公共施設を有効に活用し、社会体験の機会を持つていく。

## 6 情報公開、個人情報保護の取扱

- (1) 会報「てとて」の発行・・・年3回(6月、10月、2月) ⇒未実施
- (2) 個人情報保護規定に基づく個人情報の適正な維持・管理を実施
  - イ 利用者及びその家族等の個人情報の保護の徹底
  - ロ 会報紙等への写真掲載に関する利用者及びその家族の同意

## 7 苦情及び相談への対応

- (1) 苦情解決責任者、苦情受付担当者の配置
- (2) 受付制度及びその内容について、利用者及びその家族等への周知徹底
- (3) 相談受付後は状況確認や改善等の対策を実施し、相談者へ速やかに対応していく。

## 8 人材育成及び研修計画

- (1) 内部研修
  - イ 障害特性等理解のための研修の実施
  - ロ 個別支援計画検討会の実施
  - ハ 伝達研修の実施

ニ 法人で開催する採用時研修と継続研修への参加

(2) 外部研修

イ 各関係機関の開催する研修への参加

ロ 資格取得のための研修受講（児童発達支援管理責任者等）

ハ 先駆的に事業を開始している施設への見学研修の実施

9 防災計画

(1) 避難誘導訓練の実施・・・年3回（7、9、11月）

(2) 通報訓練の実施・・・年2回（8、12月）

(3) 防災器具、設備の自主点検の実施

10 職員の健康対策

(1) 職員の定期検診の実施・・・年1回

## 仙台市宮城野児童館

《計画内容》	《実施内容》
<p><b>1 管理運営の基本方針</b></p>	
<p>◎遊びを通して豊かな人間形成をめざし、地域のすべての子ども達の健全育成を図る地域活動の促進に力を注ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染予防策の継続と改善</li> <li>・ 子どもが主人公の遊びの場づくり</li>   <li>・ 楽しく安全な児童クラブ活動</li>   <li>・ 地域や関係機関と連携した子育て支援</li> <li>・ 子育てに関わる相談場所に</li>   <li>・ 子育てや児童文化の発信基地へ</li>   <li>・ ボランティアの力も活かした健全育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どの活動を行うにあたって、常に、感染予防の観点から実施対象や実施方法を検討してきた。結果的に、感染者が出ても家庭内感染に留まり大きな感染拡大を防ぐことに繋がった。</li> <li>・ 安全に配慮しながら遊びの自由を可能な限り認め、「子ども会議」「みんなの声」などを通して子どもたちの要望をくみ取りながら、子どもたち自身が成就感と満足感が得られるクラブ運営に努めてきた。</li> <li>・ 職員が危機管理意識を高め、安全な見守りができるように、職員会議、臨時打ち合わせ等を通じて具体的な事例研修を重ねてきた。</li> <li>・ 家にこもり孤立しがちな乳幼児親子に幼児クラブの活動や自由来館を通して、安心・安全な遊び場を提供してきた。</li> <li>・ 宮城県社会福祉協議会の「地域における子どもの貧困対策モデル事業」よりの助成を受け、乳銀杏保育園と宮城野子ども食堂と協力して、本の購入や遊びの場の提供、相談活動を行った。</li> <li>・ 小学校・保育所との情報交換を進め、連携を深めた。</li> <li>・ わらべ歌やお手玉、あやとりやおはじき、けん玉など古くから伝わる子供の遊びを職員が一緒になって楽しんだ。特に外部講師を招いての正月のコマ教室は、子どもたちにも大人気となり家族も巻き込んでのブールとなった。</li> <li>・ コロナで途切れていたボランティアの方々と連絡を取り直し、囲碁・読み聞かせ・ハン</li> </ul>

	<p>ドベルなどの企画を通して、子どもたちに変化と楽しさを与えることができた。</p>
--	---

## 2 利用者サービス向上

<p>◎地域住民に親しまれ、愛される子育て支援の拠点として利用者サービスの向上に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の要望に応えるサービスの質の向上</li> <li>・地域特性を生かしたサービス</li> <li>・個人情報の保護</li> <li>・広報活動の充実</li> <li>・安心して利用できるための衛生管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の利用者が気軽に利用できる児童館を目指したが、自由来館が断続的に休止となり、外部の方の利用にも制限をかけざるを得なかった。しかし、感染状況を考慮しながら、乳幼児の利用、ボランティアの受け入れ、備品の貸し出し、サークルの練習場利用と可能な中で要望に沿って、サービス向上を図ってきた。</li> <li>・「個人情報に関する基本方針」を策定して、常時館内に掲示している。</li> <li>・知りえた個人情報は、施錠ロッカーでの保管、定めた期日での情報の廃棄を徹底した。</li> <li>・館だよりを学校・地域に広く配布したりホームページや館の掲示板、パンフレットを分かりやすくしたりして、情報発信に努めた。</li> <li>・感染予防対策として、換気・マスク・手洗い・消毒を繰り返し呼びかけた。児童クラブ登録児童には、加えて、3蜜回避の指導と黙食の徹底を行った。備品や消耗品の充実に努めた。</li> <li>・保護者会でも繰り返し、児童館の感染対策を、説明して協力を求め、感染拡大を防げた。</li> <li>・感染症と嘔吐処理について、保健所の協力のもとで研修を行った。</li> </ul>
--	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者アンケートの実施と検討</li>   <li>・苦情対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナウイルス対策には推進課や福祉会本部からの注意文書に従って予防措置に取り組んだ。</li> <li>・ 児童クラブ保護者・幼児クラブ保護者に年度末アンケートを行った。職員の対応に対して、好評価をいただいた。課題となる点を職員会議で検討し、登録説明会・保護者会で反省事項や具体的改善案を報告し理解を求めた。</li> <li>・ すぐに改善できるものについては、年度内に実施した。</li> <li>・ 「苦情開設制度についてのお知らせ」を作成し、館内に常時掲示している。幸い苦情は寄せられなかったが、保護者からの要望や相談には、その都度丁寧に対応し、職員間でも共有し館の運営改善に生かしてきた。</li> </ul>
<h3>3 人材確保・育成</h3>	
<p>◎職責を自覚し、子どもに寄り添い、子どもと共感できるような理想と情熱を持ち、子ども一人一人に応じた継続的支援ができる材の確保と育成に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童館の役割と児童理解に関する研修の充実</li>   <li>・ 職員個人の得意分野や個性を生かすとともに、専門職としての力量を高める研修に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員会議、幼児部会、児童クラブ担当者会を通して、児童館の役割と児童理解について研修を深めた。特に「子どもの発見・子どもの理解」に時間をかけて話し合った。</li> <li>・ 支援の必要な児童については、毎回の職員会議で意識して取り上げ、対応の成果や課題、その成長をみんなで見守った。</li> <li>・ 保育士さんと合同の話し合いを持ち、乳幼児の活動に改善を加えていった。</li> <li>・ 職員の得意分野や意向も生かして職務分担を行った。パート職員も含め、各々がリーダーシップが発揮できるようにした。また、今後への継承を考え、複数で役割を担当し、教えあえるようにした。</li> <li>・ 放課後児童支援員研修、仙台市の職員研修（全員受講）を積極的に活用した。</li> </ul>

<h2>4 健全育成事業</h2>	
<p>◎子どもの成長発達を促し、可能性を引き出す日常の遊び・活動を充実させる。子どもの表現の場を積極的に設ける。</p> <p>1、乳幼児と保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児親子の仲間づくり。</li> <li>・幼児クラブの定期開催</li> </ul> <p>2、小学生、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に遊びを選び、友達と共に遊ぶ場の提供</li> </ul> <p>3、中学・高校生期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自由で開放感のある所作り</li> </ul> <p>・成人ボランティアの力を借りての健全育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由来館が制限された期間が長かったこともあり、中止せざるを得ない行事も多かったが、推進課の指示を受け、可能な活動から再開した。</li> <li>・2つの幼児クラブを定期的で開催し、地域の公園も活用して遊びの場を提供した。幼児と一緒に遊ぶ姿を見ながら、母親同士グループになって楽しんでいる姿も見られた。 (＊詳しくは、子育て家庭支援にも記載)</li> <li>・土曜日のみではあったが自由来館が断続的に再開し、毎回利用する児童もみれた。普段よりも余裕のある空間でゆったりと過ごしていた。 児童クラブの子どもたちとの交流も見られた。 (詳しくは、放課後児童健全育成事業にも記載)</li> <li>・土曜の自由来館で、小学生に教えながらスポーツを楽しむ姿が見られた。</li> <li>・卒業児童でジュニアリーダー活動に取り組む中学生が来館し、活動を紹介してくれた。次年度、ジュニアリーダーの活躍の場を設けることで計画を進めている。</li> <li>・ボランティアの方と職員がリードして、定期的に囲碁教室を継続した。新入児童も増え、大会に参加するなど、楽しんでいた。高校生も継続して参加し、楽しんでいる。</li> </ul>
<h2>5 子育て家庭支援</h2>	

<p>◎乳幼児が楽しく安全に遊べる場を提供し、保護者の気持ちに沿った子育て交流の場を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサロン</li>   <li>・登録制の乳幼児クラブ <ul style="list-style-type: none"> <li>ひよこクラブ（0・1歳児）</li> <li>きらきらクラブ（2・3歳児）</li> </ul> </li>   <li>・お話しポケット</li>   <li>・ハンドベルサークル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月末に、次の月の乳幼児行事をはがきで案内し、毎回楽しみにしてくれている親子も多かった。</li> <li>・運営母体を同じくする保育所の保育士にも協力をもらい、遊びながら子育ての相談に応える機会を作った。和やかな中でいろいろな話ができたと好評だった。</li> <li>・公園遊びや季節の行事、名札づくりや織染め遊びなどを通して、幼児の楽しい遊び場を提供できた。保育士さんも毎回参加してくれて、育児の相談の場にもなっていた。</li> <li>・読み聞かせボランティア団体が毎回様々な工夫をして歌や手遊びも含め、幼児を楽しませてくれた。自由来館休止期間には、児童クラブでもお話会を実施してもらった。</li> <li>・児童館を会場に練習を行い、クリスマス会ではきれいな音楽を聞かせてくれた。</li> </ul>
---	---

## 6 地域交流推進

<p>◎子どもたちと地域の出会いの場となり、地域に愛される児童館をめざし、地域のを借りて児童館運営に生かしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に出向く活動</li>   <li>・仙台工業高等学校との交流</li>   <li>・児童館職員の保育園訪問</li>   <li>・東宮城野マイスクール児童館との交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年も実際に地域の老人施設を訪問することはできなかったが、普段の児童館の様子を紹介したり運動会の演技を踊ったりしたVTRとプレゼントを届けることができた。</li> <li>・原町商店会の要請を受け七夕飾りを作成し、近隣の児童館とともに飾ってもらった。子ども達も飾りを工夫し楽しく取り組むことができた。</li> <li>・かねてより交流のある建築科の生徒さんが、図書室で使えるベンチを2つ作って届けてくれた。児童館からも座って読書をする児童の写真やお礼の手紙を届けた。また、授業の実習を兼ねて、分室のコンセントを更新してくれた。</li> <li>・コロナの感染拡大で2施設だけではあったが、実際に活動の様子を見学することができ</li> </ul>
--	--

	<p>た。新入生の受け入れの面でも参考になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東宮城野児童館からのお誘いを受け、卸町の商業施設と一緒に絵を展示してもらうことができた。</li> </ul>
--	--

<h2>7 放課後児童健全育成事業</h2>	
------------------------	--

<p>◎保護者が就労等で放課後家庭が留守になる子どもたちの居場所として、児童館の「児童クラブ」が果たす役割の重要性に応えるべく、安心・安全快適な「生活の場」を保障していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で遊びを決め、自由に遊ぶ、友達と仲よく遊ぶ場として機能させる。</li> <li>・「子ども会議」「上学年子ども委員会」を定例</li> </ul> <p>化し、子どもたちの意見表明権の具現化と児童館運営参加をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・投書箱「みんなの声」を設置し、本やおもちゃ、行事などへの子どもたちの要望や相談事を 真摯に取り上げ館運営に活かす。</li> </ul> <p>&lt;遊び全般&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本館サテライトとの年2回のクラス替え</li> <li>・要支援児の支援の在り方の検討</li> <li>・外遊びの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、学校や地域での行事なども少なくなっているため、感染予防を考慮しつつ、可能な活動を実施し、子どもたちの生活に変化と楽しさを与える活動を進めてきた。</li> <li>・館のルールを子どもたち自身で見直させるため、子ども会議の議題として取り上げ決まったことを掲示した。</li> <li>・3月の子ども会議で「1年生と仲良くするには」という題で話し合い、自分たちにできることを決め、名札づくりなどを実施した。</li> <li>・上学年企画行事として、冬にお楽しみ会が行われ、子どもボランティアが活躍した。</li> <li>・みんなの声に応えボードゲームやカードゲームを新規購入した。足踏み消毒器も好評だった。</li> <li>・子どもたちの悩み事も寄せられ、職員間の児童理解に生かすことができた。</li> <li>・友達関係が広がるように、子どもたちの交友関係等も考慮しながらクラス替えを行った。</li> <li>・対象児が友達と仲よく遊べるよう、やりたいことを丁寧に聞き出したり、言葉を補って周りに伝えたりした。職員会議の度に、情報交換を行った。</li> <li>・宮城野小に加え長期休業中は東宮城野小の校庭も使わせてもらい、可能な限り外遊びを行った。</li> <li>・春休みには、子どもたちの要望の一つだった</li> </ul>
---	--



<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書環境の充実</li>   <li>・スポーツ行事の充実</li>   <li>・館のきまりと危険防止の呼びかけ</li>   <li>・職員自身の遊びの幅を広げる</li>   <li>&lt;サテライト室の整備と遊具の充実&gt;</li>   <li>&lt;定例行事&gt;</li> <li>・児童館で作ってみよう</li>   <li>・折り紙</li>   <li>・子どもヨガ</li>   <li>・草花クラブ</li>   <li>・生き物係</li>   <li>・子ども映画</li>   <li>・囲碁教室</li> </ul>	<p>公園遊びが実現した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回「図書アンケート」をとり、職員のお勧めと合わせ、約100冊の本を購入した。</li> <li>・サテライトにも本棚を新設し、アンケートにより蔵書を増やし、新刊の紹介なども行った。</li> <li>・パラリンピックに合わせて、新しくボッチャを紹介し、大会を2回行い、好評だった。</li> <li>・1年生の利用開始日に児童館巡りを持ち各部屋の使い方や、先ず守ってほしいことを説明した。</li> <li>・安全面も考慮して、1年生だけで遊ぶ時間も設定した。</li> <li>・雨天時外遊びができない代わりに、職員が交代で&lt;雨天時プログラム&gt;として室内遊びを企画・実施した。ほかの職員も補助に回り、遊びの交流にもなった。</li> <li>・本館と同様に、本やゲーム・おもちゃの充実を図った。遊びのスペースを拡大したりカーテンの交換をしたり環境整備も行った。</li> <li>・土粘土、絵画、短歌のほか、時期に合わせて鬼の面や卒業プレゼントなど多様な活動を行った。人気が高く2回・3回に分けて実施もした。</li> <li>・こいのぼりや七夕、コマなどの季節を感じるものや自分で遊べるおもちゃ作りなど低学年児でも楽しめるものになった。</li> <li>・今年度初めて定例行事となった。ゆっくり体を動かすのが気持ちよいと、希望者が広がった。</li> <li>・季節に合わせて花を植え、児童館の外周を飾ったり、野菜を収穫したりした。児童も水やりなどの世話をを行った。</li> <li>・長期休業を中心に、カメとメダカの世話係を募集した。楽しみながら責任をもって行った。</li> </ul>
--	--

<p>&lt;企画行事&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の行事</li> </ul> <p>・ 音楽や読み聞かせ行事</p> <p>&lt;保護者、学校等との交流・連携&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校、保育所との連絡会</li> <li>・ いじめへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年度の希望アンケートをもとに、土曜日に月 1 回のペースで行った。自由来館の児童も一緒に楽しむことができた。</li> <li>・ 土曜日に、初心者から有段者まで、ボランティアの方の指導の下継続することができた。</li> <li>・ 七夕飾りづくりやコマ教室、お面を作ったの豆まきや大掃除など季節の行事を継続して楽しんだ。特にコマ教室では、コマ名人からいろいろな技を教わり、大きなブームになっている。遊びの文化を伝える意味からも意義あるものとなった。</li> <li>・ 外部業者の協力を得て、夏休みに「健康教室」を行った。腸の働きや規則正しい生活をする事など興味深く聞くことができた。</li> <li>・ ハンドベル演奏や読み聞かせの行事を再開し、コロナで中断していたボランティアの方とのつながりも作る事ができた。</li> <li>・ 支援を要する児童を中心として小学校との情報交換会を行った。小学校で見せる別な面を知ったり、新たな対応の参考になったりした。情報を他の職員でも共有した。</li> <li>・ 5つの保育所・幼稚園と情報交換を行った。新入生の受け入れ準備の参考となった。</li> <li>・ いじめの事案について、保護者からの相談もあり、小学校との情報交換を行った。学校・児童館それぞれで子どもと保護者の話を聞き、解決することができた。</li> </ul>
<p><b>8 事故防止・防犯防災</b></p>	
<p>◎利用者の生命を預かる使命感を職員が共有し、安全安心の場作りに努める。また、不審者等から守る任務を常に念頭に入れていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年 3 月と 5 月の職員会議で安全安心マニュアルの読み合わせと共に、これまでの事故事例をいくつか取り上げ、研修を深めた。</li> <li>・ 避難マニュアルの検討・確認と共に防災訓練</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止、防犯防災</li> <li>・事故、災害、緊急時への対応</li> </ul>	<p>を充実させ、順次役割を交代して職員誰でも適切な対応ができるように努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部屋の使い方と遊び方のルールを随時見直し、わかりやすい表示と説明を工夫した。特にヒヤリハットの教訓を生かすため職員会議等で全職員で共有し対策を講じた。</li> <li>・けがや体調不良を保護者に正確に伝えるため、症状ごとの対応・連絡カードを改善した。</li> <li>・一斉メール配信を全員登録制に改めた。</li> <li>・県内での事件を受け、職員の不審者対策訓練を実施し、不審者役を決め実際にどう対応したらよいかロールプレイングを通して学んだ。その後子どもの不審者避難訓練を行った。</li> <li>・外遊び前の熱中症計を使った警戒管理、遊戯室での大型扇風機利用、給水の励行等、熱中症対策を強化した。</li> </ul>
--	--

**9 施設維持管理**

<p>◎職員による日常の管理と外部委託による専門的管理を組み合わせ、利用者にとって安全で快適な施設維持を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常に安全に留意し、不具合な点は迅速に対応する。</li> <li>・業者と協力して、施設の維持管理に当たる。</li> <li>・ごみ減量に努め・エネルギー削減を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の点検と月の安全点検を通して、安全点検を徹底し、気づいたところの補修や注意喚起を迅速に行った。大規模な修繕については、推進課へ連絡をし、業者による修繕が終わった。</li> <li>・館内の整頓に気を配り、不要物を撤去し子どもの動線に物を置かない、指を挟みそうなところを塞ぐ等の対策を行った。</li> <li>・枝が張り出した桜の木について推進課へ報告し業者による選定を実施した。</li> <li>・警備保障会社（セコム）と業務委託をし、夜間・休館日の施設管理の徹底を図った。</li> <li>・館内の清掃は、明光ビルサービスに業務委託し、毎朝の清掃と年2回の窓掃除（窓ガラス・網戸）と床のワックスがけ清掃を委託してきた。</li> <li>・清掃担当者と連絡を密にし、作業していて気</li> </ul>
---	--

	<p>付いた点を教えてもらい、早期の対応に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・、利用者に電気水道の節約、ごみ持ち帰りの呼びかけを掲示物で行い、減量の意識化、地球環境への意識づけを行った。</li> <li>・リサイクル箱を置き、紙のリサイクルを徹底した。集めた紙類は、企画の再生紙業者へ搬入した。封筒や裏紙の再利用を増やした。</li> <li>・ごみの計量を続け、ごみへの関心を高めた。</li> <li>・子どものコップ持参を勧め、紙コップの使用を控えた。</li> </ul>
<p>10 年間行事実績</p>	<p>別紙「年間行事実績表」の通り</p>
<p>11 従業員の配置及び勤務体</p>	<p>職員 14 名  常勤 8 時間勤務 7 名（館長含む）  早番 8:45～ 遅番 10:30～  6 時間パート 1 名  早番 10:30～ 遅番 11:30～  5 時間パート 1 名  早番 10:30～ 遅番 13:00～  4 時間パート 5 名  早番 13:30～ 遅番 14:00～  常勤と 6・5 時間パートは児童クラブ担当と幼児クラブ担当に分かれる  長期休業中はアルバイトを 2～4 名を加える</p>